

英吉利	一、八八三年	伊太利	一、八八四年
露西亞	一、八八四年	佛蘭西	一、八八六年
澳大利	一、八九二年	清國	一、八九九年
白耳義	一、九〇一年	丁抹	一、九〇三年

第四節 山林業

山林業

吾人若し韓國を旅行せば前峯後嶽管是れ突兀たる秃山ならざれば雜草の蒼生せる岡陵を見るのみ森林らしきものには絶えて遭逢することなし。此に於てか韓國には森林なく又其地たる殖樹の栽植に適せざるかを疑ふ。然れ共韓國の地味は決して殖林に適せざるに非らず古代に在ては到る處の山岳に樹木の鬱蒼たるありしも未開國の常として政府の干涉保護行届かず山野は恰も人民共有の姿にして何人も恣に材木を伐採して建築薪炭の用に供し一山伐り盡せば又一山に移り濫伐したる後は敢て造林植樹を施すことなかりし結果韓國

立木地

の山野は殆んど裸出露骨のものたるに至りしと雖人烟到らず斧鉞の入らざる處には猶鬱鬱たる森林を見るを得べし。

鴨綠江畔の大森林

韓國の山野面積は約一千五百五十萬町歩にして其部合を示せば立木地は三分一にして草生地、秃山は三分二に及ぶべし。之を各道に就て記すれば西南部則ち慶尙、全羅、忠清、京畿、黃海の五道は概して秃山草生地多く東北部則ち江原、咸鏡平安の三道は立木地多しとす。而して京畿道より江原道に連なる處森林を見るに尠からず又江原道、咸鏡道間との境界には立木多く咸鏡道の東海岸に起伏せる山脈には處々に松林及び雜林鬱生せり。有名なる鴨綠江畔の大森林地なるものは平安道の江界郡より始まり慈城、厚昌の二郡を越て咸鏡道の長津、三水の二郡に亘り白頭山の根脚に及び更に甲山、茂山の二郡に連亘し其領域は東西の延長約八十里南北の幅十里乃至二十里の區有林面積に均し。就中厚昌、慈城、三水、長津の四郡は鴨綠江を界として清國吉林省に接し、彼の清帝太祖の發祥地として有名なる長白山一帯の地と密接するを以て昔時韓廷が清國に對し外交的關係の爲めに廢郡と爲し住民を退去せしめたる處にして人跡全く絶え斧

鳥嶺山林

餓の入らざると數百年老樹巨幹蒼鬱として幽邃の地たり。而して鴨綠豆滿の
 二大水流は此森林に分水し東西に背流して以て此大森林の爲めに舟筏の便を
 與へつゝあり。斯の無盡藏の大富源は清韓人の手に依りて僅に伐採せらるゝ
 のみなりしが近年東洋に虎視耽々たる彼の露國の如何て之を過眼すべき韓廷
 に強請して此に伐採權を得一大會社を組織して大森林の伐採を開始したり。
 其豆滿江流域に於て伐採したるものは此を同江流に下して浦鹽に輸送し鴨綠
 江流域に於て伐採したるものは清領大東溝に流下し此一大有利の事業は日露
 開戦前まで全く露國の壟斷する處となりつゝありしなり。今や日露戰爭の効
 果に依りて此大森林の經營は我が帝國の掌中に歸するに至りたり。將來其經
 營の方法にして宜しきを得ば其利益實に計るべからざるものあり以て我が滿
 韓經營の財源たらしむるに足るべし。

鳥嶺山林も亦韓國に於ける有名の大森林にして慶尙道の開慶郡より超へて
 忠清道の水安府に至る道途に當り兩道の境界をなす山脈にあり。此山林は禁
 伐林にして皇室の所有に屬し帝室用の外一切伐採するを得ずと雖損木は拂下

水産業

水産

ぐるることあるを以て人民は往々にして放火することあり。面積は六方に里に涉
 り樹種は赤松を主木とし其純林ありて大楢小枹等を下木とし尙ほ楓白逆木栗
 檀木樅等を混ざる部分多し。

此外沿海の島嶼には樹木の鬱生せるもの尠からず殊に僻陞島は良材に富み
 本邦人の伐採事業に従ふもの多し。

第五節 水産業

韓國は半島國なるを以て土地の面積に比較すれば海岸線に富み其延長實に
 一千七百餘哩に及ぶ隨て領海面積廣汎にして殊に其東海岸は露領の沿海より
 來るライマン寒流の通ずるを以て最も水族の叢生を見る。然れ共從來韓民の
 漁業に従ふもの甚だ尠く且つ其漁法は極めて幼稚拙劣なるを以て沿海の漁利
 は多く本邦漁民の獲得するに委したり。本邦漁民の韓海に船を浮ぶるもの無
 慮一万人以上に達し府縣は二十餘府縣漁業種類三十餘の廣きに亘り漁業免狀
 を出願したるもののみも三千艘に及び年々の漁獲高約三百萬圓に上るといふ。

之れが爲め朝鮮通漁組合なるものありて釜山に本部を置き各地に支部を設け常に巡羅船を出して漁民輻輳の漁場を回航し漁民を保護し監督するの組織を爲し日本政府は年々若干の補助金を此組合に下附して其事業を奨励せり。

漁魚の産額は咸鏡道の明太魚江原道の鱈全羅慶尙兩道の鯛鱈石首魚を以て最も重要なものとし之を韓海の五大漁業と稱す。而かも從來本邦漁民の漁獲區域は慶尙全羅江原咸鏡四道の沿海に限られたりしが昨明治三十七年六月を以て忠清黃海平安三道の沿岸に於ても亦捕魚するを得るに至り本邦漁民の漁魚區域は更に擴張せられたり。今韓海に於ける重要な漁業の狀態を追次に列舉せむ。

捕鯨業

捕鯨業 韓海には鯨族の回游するもの頗る多く其種類は長鬚脊美座頭小鯨鱈鯨等にして江原咸鏡兩道慶尙北部を其回游地とす。季節に至れば一日の航海に十餘頭を見ることが少からず。捕漁の根據地は其裁解地たる蔚山灣通川灣迎日灣馬釜島の外元山灣内の松口港咸興郡の西湖端川郡の遮湖富寧の青津鏡城郡の楡津灣等亦好適地なり。

明太魚漁業

捕鯨船の出獵するは例年十一月頃にして初期は咸鏡道新浦を根據地とし漸次南下して十二月下旬に元山長箭津近海を獵し一月に入つては蔚山灣を根據地とし江原道南部及び慶尙北道を獵し五月に入て終る。捕鯨法は諾威式及び亞米利加式にして快馳の汽船に乘じ銃殺す。現時捕鯨に従事する者は遠洋漁業株式會社奴賀鯨組遠洋捕鯨株式會社五島捕鯨會社藤村捕鯨組天春捕鯨組以上本邦人太平洋捕鯨會社ソリガ一商會等なり。

明太魚漁業 明太魚は本邦に於て助藤鱈と稱するものにして別名を北魚ともいふ。産額需用共に韓國海産物の第一位に居り年々の漁獲高六七十萬圓に及ぶ。漁業地は咸鏡道洪原郡の前津以北より端川郡梨湖に至る近海三十里に亘る。就中新浦新昌遮湖の三部を最とす。漁場は概ね二三海里乃至五六海里の沖合水深二三十尋乃至七八十尋にして底質細沙若くは泥沙を混じたる處とす。漁具は主として刺網延網手繰網の三種を用ふ。明太魚の需用地は各道は素より露領地方にも輸出し販路頗る廣し。韓國古來冠婚葬祭共に式例に之れを使用するの慣例あり。

鯛漁業

鯛漁業 鯛は沿海普く産す。東海方面に於ては江原道より元山附近に至る沿海に饒く盛季には一網一万尾を漁獲するは珍からず。西海方面にては群山浦の沖隔音群島、竹島、煙島等の間を主とし南海方面にては雁島、南海島、欲知島の近海なり。漁具は配網を主とし縛網、鮫鱈網、一本釣等之れに次ぐ。年々の漁獲約十五六萬圓に上る。

鱈漁業

鱈漁業 韓海に於ける鱈漁業は本邦人の漁業中最主なるものなり。一年の漁獲高約五十萬圓に上り本邦に輸送するもの三四十萬に達す。南海面及び東海面に饒産し殊に元山以南江原道は沙濱多くして地曳網の好漁場に富むが故に其業盛大なり。漁場の主なるは馬山浦口、鎮海灣、固城沿岸、巨濟島、欲知島、濟州島附近、蛇梁島、南海島とす。韓人は秋子島附近、濟州島沿岸、太郎島、新安島、莞島、巨文島に於て漁業す。本邦漁業者は廣島縣を主とし香川、徳島、大分、岡山、愛媛、福岡、熊本諸縣にして漁具はゴンゲンヌイ、揚繰網、巾着網を使用せり。

鱈漁業

シラ楢木鮫の棲息區は江原道の沿海より濟州島に及び本邦漁業者延網を以て

鯛漁業

漁す。白鱈の産地は濟州島近海なり。鼠鮫は對島及び慶尙道との間なる朝鮮海峡を以て其首要の漁場となす。漁具は浮延繩を用ひ毎年十一月より翌二三月に至る季間本邦の出漁船數百艘に及び收穫七八萬圓に及ぶ。マブカは鱈族中の重要なるものにして大さ二百斤に至り體肉鮮共に良好なり。ドクは其棲息區域最も廣く其産額亦少からず體肉鮮共に良好にして鱈族中の第一位に居る。本邦の出漁者は山口縣、鶴江浦、玉江浦、大分縣、佐賀關、中津浦の漁船殆んど全部を占む。

鱈漁業

鱈漁業 鱈は釜山以北江原道に棲息し就中慶尙道機張郡より巨濟島に至る沿岸と朝鮮海峡に群集し本邦漁船の出漁亦多く釜山は其根據地にして其漁獲高年々約三萬圓に及ぶ。漁具は天秤釣を用ひ夜間洋燈を點じ魚群を誘致し之れを釣獲し一夜一隻にて四五千尾を獲ることあり。韓人は巨文島、濟州島、秋子島附近に出漁す。

鱈漁業

最も旺盛なるは慶尙、全羅、忠清の三道にして江原、咸鏡の沿海には未だ多く着手

せられず。春季末四五月頃群山沖を主とし雁島、召山島、拍竹島等にも群集す。江原道沿海には陰曆四月上旬より回遊し漸次北上し八月頃より再び南下す。其盛季游泳の状は幾千万群を爲し濺浪飛躍頗る壯觀を極む。漁具は地曳網を用ひ一個能く三四千尾を漁すること稀なりとせず。本邦の漁業者は香川、岡山、愛媛、大分、島根、佐賀等とす。

石首魚漁業

石首魚は韓國西南海に饒産し殊に全羅道七山島、黃海道延平島及び平安、黃海の境界なる於龍島を以て石首魚の三大漁場と稱す。石首魚は頗る韓人の嗜好に適し其需要は北韓の明太魚に次ぎて最も汎く全羅道、明太の稱あり。初期の走り魚の如き關東人の初鯉に於けるが如く價の高貴を擇ばざるの風あり。重なる需要地は馬山浦、法聖浦、江景、廣川、京城、仁川、開城、海州等にして此等の地方より更に各地に配布せられ、法聖浦、江景の如きは一日百万尾の賣買あり。漁季には各道沿岸より買出船出張し漁船一雙に就き買出船數隻纏綿し買出船の數は漁船に幾倍す以て石首魚の需要力の盛なるを知るべきなり。本邦人の石首魚漁に着手したるは近く明治三十二年にして一隻の漁獲高は一

鯢漁業

夜四千尾乃至二万尾に達すること尠からず年々漁獲高三四十萬圓に及ぶ。鯢漁業韓名魴魚。鯢は咸鏡、慶尙、江原各道に饒産すと雖就中江原道の三陟、江陵、襄陽、杆城諸郡の沿海を主とし盛漁季には一網能く三四千尾を漁す。鹽魚、素乾又は鮮魚の儘各道及び本邦に輸送し毎季の額七八萬圓に上る。漁具は鱧流網、地曳網、刺網、建網等を用ひ價額は季節により各地非常の差あり。八、九、十月の頃は東海岸に於て一尾百文乃至百五十文なれども十二、一、二月の交は木浦に於て一圓の高價を存せり。本邦人の專業に従事する者は甚だ多からず。

鯢漁業

鯢漁業韓名民魚。鯢は京畿、黃海兩道の沿海に饒産す。殊に木浦の沖合遼島附近に於て漁獲最も盛なり。其氣胞は鰾膠に製し鹽藏の肉は觀月祭に供用せらる。韓人は主に一本釣を用ひ潮流に流釣す。又天秤釣を爲すものあり。全羅道方面より黃海道延斗灘には流網を以て出漁するものあり。一季間に一隻の漁獲高三百五六十圓に上る。又簗を用ひて捕獲するものあり。

鱧漁業 全羅道汝自灣、邦人シンゲン灣と稱す。得糧灣、邦人バンケ内と稱す。及び忠清道於青島沖合に饒産す。韓人は延繩を用ひ年々於青島沖合に集合す

る者二百餘隻に及ぶ。本邦人も延縄を用ふれ共全羅地方にありては空釣をなし忠清道沿海に於ては有御繩を使用す。於青島に於ては操業するものは多く仁川方面に住する漁夫にして其數三十隻内外なり。於青島には數十の仲買來たり競ふて之れを買入れ隨て價格も高く一尾百五十文乃至二百文なり。正月の頃は時風多く一個月僅に二三回出漁し得るに過ぎざるも一回尙百圓乃至參百圓の漁獲あり。

鱈漁業

鱈は韓海到る處に回游すと雖其漁場は巨濟島、馬山浦及び統營を主とす。漁船は二艘を一組とし一組の漁獲高一個年一千五百圓なり。漁期は十月より翌年四月に至れ共二月以後は鱈漁業に移るもの多きを以て漁獲高多からず。

鯨漁業

鯨は沿海普く産すと雖釜山灣内洛東江口、巨濟島近海及び機張郡沿海を漁場とし又豆滿江口にも饒産す。釜山附近に於て漁獲するものにて一萬圓以上に及ぶ。近年専ら瀬建綱、石線綱を使用し漁季は十二月より翌三月頃なり。元山附近に於ては二尺に達するものを見る。

大刀魚漁業

大刀魚は各道の沿海に普く産すと雖就中全羅の北端竹島、煙島及び忠清道沿海に最も多く産す。本漁業には未だ本邦人の着手したるものを見ず韓人及び清國人盛に従事せり。韓人は主として朱網、配繩を使用し中には一本釣をなすものあり。清國漁夫は多く盛京省より來るものにして其漁獲したるものは悉く壙藏して自國に持歸り韓人に賣却すること無し。大刀魚は四月より六月の交沿岸近く群游し此交を漁期とす。

鮫鱈漁業

鮫鱈は全羅道の駕莫洋、汝自灣、居全島近海得根灣、松耳島、萬不島、七山島、長華島近海に饒産す。本邦漁民の従事する者頗る多く岡山、愛媛、香川各縣の漁船年々七八十隻四五月の交より十月頃迄出漁す。漁獲高は一隻一日に約六十貫乃至千五百貫目に達することあり副獲物として鱈、石首魚、鰻等多し。鮫鱈の性健全なるものは活洲に放ち本邦博多、下ノ關、兵庫、大阪等に輸送す。

打瀬網及び手線網漁業

打瀬網及び手線網漁業 打瀬網は比目魚、鰈、鰻頭魚、虎魚、鯛等を漁獲す。漁業者は主に大阪府、兵庫縣民にして毎年冬季間釜山近海、加德、巨濟島附近に出漁し一季の漁獲高一隻約三百圓内外とす。手線網業は廣島縣人を主とし愛媛、香

潜水器漁業

川諸縣の漁業者亦從事せり。漁場は釜山近海、統營、加德、巨濟島附近及び全羅道近海なり。漁魚種は鱈、メバル、海鰻、鱧、チヌ、章魚其他の雜魚にして韓人の需要多く近年從事する者増加し一個年の漁獲高五萬圓に達せり。

潜水器漁業 本業は本邦人の従事者頗る多く漁船の集合するもの百五十艘に及び長崎縣人を主とし山口、徳島、兵庫、大分の諸縣人此に次ぐ。漁獲は海鼠及び鮑にして海鼠六分、五厘鮑三分五厘の比例なり。漁場は半島全沿海に亘り季節を追ひて周年通漁し亦韓海重要漁業の一たり。慶尙、全羅、江原道沿岸にては海鼠、鮑を採取し元山以北にては専ら海鼠を漁獲す。其額は春秋兩期を通して一隻約二千五百圓に達す。

海鼠は全國の沿海に饒産すと雖全羅道濟州島より欲知島に至る外海面の産は頗る良種に屬し所安島より慶尙、江兩道及び咸鏡道新浦産は稍劣等なり。新浦より北上するに従つて良種となり特に鏡城、豆滿、江近海産は肉厚く形大にして味殊に濃かなり。往時は非常に饒殖せるも潜水器を以て濫漁の結果近年著しく産額を減じられ共現時尙年々約十四五萬圓の産額あり。韓人は鮮食し又

牛 牧畜業

鹽乾して貯藏し本邦漁夫は海參となし清國天津、芝罘、浦鹽斯德地方へ輸送す。鮑は濟洲島に産するものは頗る大にして一般中一升の水を容るゝものあり。鮑も亦數年前までは棲息饒多なりしも本器業者濫採の結果産額著しく減じ目下一個年の産額八九萬圓なるべし。

第六節 牧畜業

韓國には好牧場尠からずと雖未だ大仕掛の牧畜業を爲す者を見ず。然れ共牛、馬、山羊、驢、馬、豚等到處に飼畜せられ殊に牛は最も優れたるものにして骨格の肥大なる米國産種と匹儔せり。年々生牛若くは牛皮、牛骨の輸出せらるゝもの總計三十萬頭に近く生牛の輸出先は重に日露兩國にして其本邦に來るものは大抵釜山より輸送せられ中國、四國、九州邊に於いて勞働用として需要せらる。其輸出額は密輸出を加へ一個年二三千頭の間有るべし。露領に輸出するものは咸鏡道よりするものにして元山津より海路浦鹽斯德に送るものと陸路豆滿江を経て西比利亞に送るものとあり。海陸を合せて一個年の輸出高三萬頭

を下らざるべし。城津及び元山附近の主なる産地は咸鏡北道地方及び永興、高原、定平の諸郡、平安道陽德邊にして殊に牡牛は平安道産、牝牛は咸鏡道産多し。釜山より輸出するものは慶尙道産を主とし、東萊府の市場は特に其賣買隆なり。牛皮は韓國に於ける重要輸出品の一にして年々の輸出額約八十万圓に上り内地の消費高を合すれば一百万圓以上に達す。牛骨は牛皮に比して輸出高稍少く我が國の需要地は鹿兒島を主とす。

家豚

家豚は殆んど毎戸に飼養せられ多くは婦人の内職となり居れり。家豚の有主は多く細君にして其家に入出入する妻女に托して飼養せしむ。富豪の妻女にして往々數千頭を所有する者あり。家豚は最も多く食料として需要せらるゝと云へ雖其種質矮小且つ其好ならず。然れ共年々浦鹽斯德へ輸出せらるゝもの尠からず。

馬

馬は所謂朝鮮馬と稱するもの多く通常丈け三尺六七寸にして軀幹短小なること日本種に比すれば甚だしき差異あれ其蹄質堅硬にして其性質柔順能く勞役に堪へ輻重の運搬若くは旅客の乗用に使用せらる。其飼養は牛豚の如く盛

山羊及び家禽

ならず。山羊及び家禽等も食用として飼育せらるゝこと我が國に優れり。且つ韓國にては到る處犬を飼養す此れ亦食膳に供せんが爲なり。

第七節 鑛業

鑛業

鑛山は韓國の一大富源なり。蓋し韓國の岩質は大古紀に屬し且つ此古紀岩層中に隨處花崗石の噴出するあり此古紀層と花崗石と接觸する所多く鑛脈を存するを以て十三道中到る處として鑛物の埋藏せられざるなく就中金鑛は其大部分を占め現時開堀せられつゝあるものは僅に其一小部分に過ぎざれども韓國貿易品中の要部に居り年々我が國に輸出せらるゝもの五百萬圓に達し一箇年の採堀高は畧八九百萬圓なるべし。韓人の採堀に係るものは規模極めて小にして其方法又頗る不完全なりと雖外國人の租借經營に係るものは頗る宏大の組織を以て開堀せらる。今各道に就て之を掲記すれば、

平安道

平安道は全國中尤も鑛山に富むと稱せられ今日迄に發見せられたるものに

ても頗る多し。砂金の産地として般山、成川、順安、雲山、朔州、寧邊、宣川、義州、安州、泰川、价川、熙川、慈城、江東、江界、原昌、昌城、龜城等あり。品質は般山、成川を最良とし産額の多きは順安、雲山、朔州、寧邊、宣川等なり。毎年三、四月及び八、九月は採掘額の最も多き時季にして其産出高は本道を通じて一箇年五六十萬圓なるべし。

石金坑としては般山、雲山、遂安の三所最も有名なり。般山は英國人の租借して經營するものに係り、鑛區は平壤を距る東北十五里、般山郡龍化場に在り。明治三十三年十二月の創業にして現時の開坑は呂梁、楊鎮の二箇所とし製煉場、機關場、工場、事務室、社宅等の設備ありて英人、日本人、支那人等七八十名を使役し毎月七八萬圓の産出ありて前途益有望なり。雲山は米人の租借經營に係り平壤を距る北に三十里、雲山郡に在り現時三坑ありて日、清、韓人を使役し其産額は一箇年約二百五十萬圓を下らず。

平壤無烟炭は平壤の東南二三里より十二三里に亘り鑛區非常に大なり炭質粉碎し易く燃燒力亦甚だ強からずと雖、炭層の所在甚だ淺く地上に露出せる處あり。明治二十八年韓國宮内府に於て始めて採掘し三十一年六月以降本邦人

咸鏡道

の手により採掘せられしも現時は宮内府との契約に依り佛國ロンドン商會及び韓國豊阜會社に於て採掘す。

此外价川の鐵鑛は有名なるものにして韓人の採掘に係り又成川、順安、朔州、龜城に鐵鑛あり、原昌には銅鑛あり、般山に無烟炭鑛あり、江西、雲水には炭酸水の産出あり。

咸鏡道に於ては石金及び砂金は安邊、高原、永興、定平、長津、三水、甲山、端川、吉州、明川の諸郡に産す最も多量の産出あるは永興郡にして此に次ぐこと定平、長津、端川の各郡とす。品質は甲山郡の産を第一とし千分の九百三十乃至七十を含み最劣等は永興郡産出の石金にして千分の五百五十を含有す。銀は端川郡より産出あり他にも銀鑛おれ共採掘せられたるものは絶無なり。

銅は甲山郡銅店より産出す。此銅鑛は今を去ること數十年前清國人の發見に係り、韓國政府の特許を得て採掘に従事せしが鑛脈の有望なる他に比類なきを以て甲山郡邑の韓人等は清國人の特許期満了するを待つて一箇年二萬兩凡我が三千圓の税金を納付すべき條件を以て更に許可を得繼續して採掘せり。

坑は二個所に在りて鑛脈は四里に亘り坑數約五十、各人の所有に屬し精鍊所たる鑛冶屋は約五百個所ありて坑夫は通常二百餘人とし多く土地永住者にして他の新來者は殆んど其勞力に堪へず窒息又は頓死することあり鑛石運搬者は五百人なり。

鐵鑛は端川、城津、文川の三郡にあり。石炭鑛は永興、端川、城津、吉州、明川、鏡城の諸郡に産すと雖韓人の採掘法不完全にして收支償はざるを以て目今採掘中のものなし。

黃海道

江原道

黃海道には松禾、長淵、遂安、裁寧等より金を産出す。

江原道に於ては春川、三沙、金城、浩川、麟蹄、原州、結城、淮陽、平康の各所に金鑛あり。又歙谷、鐵原に鐵鑛あり。

京畿道

忠清道

京畿道に在ては安城、通津、砥平、揚根に金鑛あり。

忠清道は稷山、清州、忠州、文義、公州、青州、報恩、永洞、黃洞等に金鑛あり又稷山、清州は鐵をも産す。稷山金鑛は我が濫澤、淺野、兩氏の採掘權を得たるものなれども大規模の設計に適せざるの故を以て目下中止せらる。

慶尙道

全羅道

慶尙道に於ては各種の鑛物を産出す。石金及び砂金の産地としては益徳、昌原、咸安、星州、善山、若木、青松、義城、慶州、晋州、安東、蔚山等あり。鐵は固城、梁山、金海、丹城、泗州、彦陽、清山、盈徳、昌原、咸安、三嘉、寧海、慶州、陝川、永川、禮安、安東、醒泉、尙州、龍宮等の各地より産し銅は盈徳、昌原、咸安、寧海、慶州等より出て、銀は龍宮、寧海、慶州等より出て、礪石は金海、丹城、泗川より出て又蔚山よりは雲母、玉石、水晶、水銀、出て寧海、慶州よりは雲母、比磧、水晶、瑪瑙、石、硫黃、砂鐵、白礬、鉛等出て尙州より玉石、水晶、水晶、豐基より瑪瑙、水晶、玉石、雲母等を産す。然れ共是れ鑛山の智識なき韓人の稱する所なれば今日に於ては名ありて實の存せざるものもあるべし。

全羅道に在ては全溝郡院坪より砂金を産し之れを南鑛と稱し同郡鳳林里より石金を産し之を東鑛と稱す。南、東鑛を合して坑夫約五百人あり又鳳林里より一里半を隔てたる釜洞に石金を産し坑口五十以上に達し一時盛に採掘せしも現時は休止せり。院坪附近の田圃間には砂金を採掘せし小杭無數なり。又任實郡に砂金の産地あり近來の發見に係り目下坑夫五十人内外あり。

上記の内有名なる鑛山は去る明治三十一年以來殆んど擧げて宮内府内藏院

の所管に歸し農工商部の所管に残れるものは實に僅少なり。宮内府には鑛山監督部ありて其所管の鑛山を總轄し各道に鑛山監督なるものを派し監督の下に委員なるものありて上納金を徴收す。

韓人が採鑛の状況を見るに井戸の如く縦坑を穿ち其採掘せる鑛石は鐵槌を以て粉碎し更に之を砥石に懸けて細末となし一升乃至二升宛桶に入れ水に浸して搖るときは數分間にして金粉桶底に沈澱す之を乾燥し以て市場に出す。而して其桶は韓國に於て普通使用する米磨桶に類似し内側に螺線條を彫りたるものなり。

第九章 貨幣

韓國の貨幣制度は開國五百三年に我が舊の銀貨制度に倣ひ新式貨幣發行章程なるものを發布し典國局に於て之れが貨幣を鑄造したれ共惡貨幣濫發の結果其幣に堪へず更に我が金貨本位制に倣ひ明治三十六年貨幣條例の發布ありしも此條例に據りたる貨幣は未だ鑄造せられたるもの無し。韓國には舊來韓

錢なるものありて普く民間に使用せらるゝも近時外國貨幣殊に日本貨幣の流通するもの實に尠からず其信用韓貨幣の上に出で韓貨幣は日本貨幣に對して打歩を付するにあらざれば流通する能はざるに至れり。今韓國に於ける内外流通貨幣を分類して列擧すれば左の如し。

韓國貨幣

韓錢

一、韓錢 韓人は之れを錢文と稱す。此貨幣は古來流通し來りたるものにして國內全部に流通せり。新貨幣銀本位最新貨幣(金本位)の未だ普及せざるが爲めに實際上此貨幣が本位貨ともなり又補助貨ともなりて通用せり。明治二十五年頃平壤に於て鑄造せられしを終りとし現時の流通高は約六百萬圓内外なるべしといふ。其種類に三種あり(一)葉錢は所謂一文錢にして肅宗時代以降發行せられ其種類甚だ多し(二)當五錢此は今王二十年に鑄造したるものにして始め一枚を以つて葉錢五枚に換ゆるの勅令ありしによりて此名あれ共近時は總て葉錢と同一の價格にて通用せり(三)新錢は今王三十年に平壤に於て鑄造せられたるものにして其質の粗惡なる我が銀錢に劣るを

新貨幣

以て韓人間にては其授受を殊に嫌忌して殆んど通用せず。

二、新貨幣(銀貨本位) 新式貨幣發行章程に依りて發行したるものにして最低位を分とし十分を一錢とし十錢を一兩とせり。故に一兩は我が二十錢に相當し五兩は我が一圓に相當す。然れ共民間普通の稱呼は今尙古來の兩文を使用し一兩は即ち百文にして我が四錢に當り、二十五兩を以て我が一圓に相當す。故に新式發行章程と民間普通の稱呼とは其兩なるものに於て一と五と相匹儔するの差あるなり。

新貨幣には銀貨と銅貨とあり。銀貨の中に又二種あり(一)五兩本位貨は我が一圓に當り同量同質なり。(二)一兩補助貨我が二十錢銀貨に相當し同量同質なり。此二貨幣は章程發布當時に幾何か鑄造せられたるものあれ共其類僅少なると爾後流通場外に驅逐せられたるにより現時流通せるものを見ず。銅貨中の(一)二錢五分白銅は我が五錢白銅貨に相當し同量同質なり。然るに近三四年韓廷の濫造甚しきと民間に於て默鑄私鑄の盛に行はれたるとより品質粗惡となり信用失墜し日本貨幣に對し十五割以上の打歩を附せざれば

最新貨幣

外國貨幣

日本貨幣

流通せざるに至り此爲めに彼我貿易を沮害すること尠からず。其發行額は章程發布の當時は七万六千六百一圓四十錢なりしが濫造の甚しき現時大約一千四百萬圓内外なるべしといふ。(二)五分赤銅貨は我が一錢銅貨に相當し舊錢五枚に當り現時の發行額二十萬餘圓なり。(三)一分黃銅貨は我が二厘に相當し舊錢一文に當る。

三、最新貨幣(金貨本位) 金貨二十圓十圓五圓銀貨半圓二十錢銅貨五錢白銅貨一錢赤銅貨の七種ありて總て本邦貨幣と同價同量同質なれ共未だ發行せられず。

外國貨幣

一、日本貨幣 日本貨幣は近來韓國に於て益々信用を博し開港場附近に於ては取引の過半は日本貨幣を使用するに至れり。其種類を區別すれば

(一)兌換券は日本銀行兌換券にして開港場及び開市場にても性質を了解したる韓人は悦んで受領す。此外明治三十五年五月より我が在韓第一銀行支店に於て發行したる一覽拂約束手形は其種類拾圓五圓壹圓五拾錢貳拾錢拾錢

其他外國貨幣

等ありて其信用兌換券と匹儔し追々其流通區域を擴張しつゝあり。(二)補助貨幣中五拾錢貳拾錢拾錢貨幣は兌換券に比較すれば其流通區域は甚だ廣く白銅貨赤銅貨は多く流通するものを見ず。

二其他の外國貨幣は墨西哥貨幣支那貨幣は支那人の輸入に係ると雖其流通高多からじ。露西亞貨幣は留貨幣にして咸鏡道北部即ち露境に接近せる地方に流通す。之れ此地方韓人の露領に出稼したる者の携へ歸れるが其儘通用するものと慶興に於て露國と陸路貿易の際受授せるもの、流通するなり。其額は約八十万留内外なるべく日本貨幣に對する打歩一留五拾錢の割を以て受授せらる。

第十章 交通

第一節 道路

道路

韓國には二三の幹線を除くの外は殆んど道路と稱するに足るものなし。通常道路と稱するは其幅一間乃至二間なれ共破壊に任して曾て修繕を加ふるこ

旅行

旅舎

となきを以て凸凹崎嶇甚しきのみならず特に沿道農民が破壊して耕地に取入れたるあり或は河流の爲め崩落せるありて辛ふして通行し得る處尠からず殊に雨天には泥濘甚し。且つ河流には橋梁を架せざるを以て小川は徒涉し大川は渡舟に依らざるべからず。故に霖雨の候河川漲溢に際せば徒涉の甚だ困難なるのみならず渡舟も中絶し交通杜塞すること數日恰も舊幕時代の我が大井川の川止めの如きこと尠からず。

韓國の旅行は徒歩の外馬若くは轎子に乗するを常とす。然れ共轎子は頗る遅々として到底長途の旅行に堪へず馬は其體小なれ共能く勞に堪へ且つ何地に於ても供給あり價の廉なる轎子の四分一にて足る。開港場には近來本邦より輸入したる人力車の便ある處あり。貨物の運搬は牛車及び荷車を使用すと雖上述の如く道路不完全なるを以て内地に在りては牛馬若くは人背に依るを多しとす。女子は一般に物を頭上に戴きて運ぶ風あり。

韓國内地に於ては旅舎の設け殆んど有ることなく處々の都邑村落に酒幕と稱するものあり旅人は此に就きて飲食し又宿泊す。然れ共倭屋にして二三の

小室を有するに過ぎず且つ不潔にして寢具なく一室數人混宿するを常とし其不便堪ゆべからず他國人は大概食料寢具等携帶を要す。

韓國に於ける幹線道路韓人の所謂巨道は其幅員平均六尺乃至十餘尺にして車馬を通ずるに足り京城を中心として數條の街道あり。

京釜街道 此街道には三條あり。第一線は京城より東南廣州に至り和川、陰竹を経て忠清道に入り忠州に達し烏嶺の嶮を踰へて慶尙道に入り咸昌、尙州、善山を経て大邱に出て清道、密陽、三沼津より釜山に達する九十一里三十二町とす。第二線は前線忠州より東に折れて清風に出て小白山の西麓に沿ふて慶尙道の順興、安東、義城、永川より慶州に至り蔚山を経て釜山に達するものとす。此線は大に迂回せり。第三線は第一線の西に沿ふて陽智、竹山を経て忠清道に入り清州、永同、星州、靈山、金海を経て釜山に達す、扶桑驛より永同までは京釜鐵道に沿へり。

京元街道

京元街道 京城より東北抱川、永平に來りて江原道に入り金化を過ぎて金城に達しそれより鐵嶺の嶮坂を越へて咸鏡道に入り安邊に至り元山に達す。此

京釜街道

間坂路多く頗る困難なり、里程四十九里とす。元山より更に咸鏡道の海岸に沿ふて徳原、永興、定平、咸興、洪原、利原等を過ぎ露領境畔の慶興に至るべし、此里程百五十六里とす。

京義街道

京義街道 此街道は古來韓清兩國交通の要路にして韓國中第一の良道なれ共其修繕行届かざるを以て本邦の縣道に比するも尙劣れり。日露の戰役に砲車輜重の運搬の爲めに修築を加へたる處多く、京義鐵道は全く此街道に沿ふて敷設せられたり。其順路は京城より北、高陽、坡州を経て臨津江を涉り長瑞より開城に出て金川、平山、瑞興を過ぎて鳳山に至り黃州、中和より大同江を超へて平壤に達し更に北して順安、肅川を経て清川江を横り定州、宣川より義州に到る、此間の里程九十六里なり。

第二節 鐵道

京仁鐵道

京仁鐵道は京城より仁川に到るの鐵道なり。始め明治二十九年三月米人ゼ

京仁鐵道

ームス、アール、モール氏が韓廷より敷設権を得たりしを本邦朝野の有力者間に於て對韓經營上忽にすべからざるものあるを覺知し京仁鐵道會社を創設して之れが權利を譲り受け資本金二百五十萬圓餘を以つて三十二年四月起工し三十三年七月に至りて竣成開通せり。全線二十七哩、橋梁十五個所、其總延長三千四百八十五呎、溝橋七個所、其總延長四十八呎なり。本鐵道は明治三十六年十月京釜鐵道會社の買収する所となり同會社に合併せり其運輸營業は頗る好成績にして最近三箇年間に於ける毎年期の平均収入は左の如し。

	一哩一日平均收入	
明治三十五年前半期	二二四五	同上後半期
明治三十六年同	二六六二	同
明治三十七年同	四九一七	同
京釜鐵道		
		二二三五
		三二一〇
		五三六四

京釜鐵道は明治二十七年八月日韓兩國間に協定せられたる暫定條約に據り同三十一年九月創立委員は更に韓廷と實施の條約を締結し資本金二千五百萬

京釜鐵道

圓と定め同三十五年八月工を起したるが同三十六年十二月速成問題の決するや政府は社債一千万圓に對する元利支拂の保證を與へ其他特別補助金を下附し會社員の更迭を斷行し同三十七年十一月全線を開通し本年一月一日を以て營業を開始するに至れり。

本線路の延長は二百七十四哩にして停車場四十二個所全線の橋梁三百〇二、徑間數六百四十四連、總延長二萬八千三百八十呎餘、隧道の總延長四萬七百八十八呎、隧道の長さものは省峴隨三千九百四十八呎、塔岩隧道千六百八十三呎、扶桑隧道千二百二十二呎、又橋梁の長さものは琴湖江千二百二十二呎、洛東江千五百三十四呎、錦江第一橋梁八百二十四呎、第二橋梁九百五十三呎等なり。勾配は五十分の一より急なるはなく全線路中最高點は慶尙、忠清兩道の境界に接せる秋風嶺驛にして海拔七百七十二呎とす。

此線路は韓半島中最も人口稠密なる所謂三南即ち全羅、忠清、慶尙の三道及び京畿道を通過するものにして實に全國富源の要區を網羅する者たり即ち此四道の戸數と耕作地とを以つて全國に比するに戸數は其十分七弱に居り耕作地

は七分五強を占む。又此線路範圍内に於て約六七十個所の市場を有し現時輸出入の總計七分五は此線路範圍に於て産出し消費せらる。本鐵道の開通に對する利益は韓半島の寶庫富源たる三南地方を開放するに均しきものあり。直接經濟上の利益を外にして間接に政治的權威の扶植及び軍事的形勝の地歩を占むるに與つて大勢力あるは言ふまでもなく沿道の停車場は漸く日本的市街を成し日本語は隨所に流行し日本貨幣は自由に流通し爲めに三南地方の人民は日本の感化を受けて文明の風氣に養はれ同時に我が對韓貿易は從來に比して教倍の増進を來すべく要するに韓半島南半部をして我が統治の下に立たしむると同一の結果を呈すべし。

本鐵道は一月一日開業以來豫定以上の好成績を示し一月には收入一日一哩平均六圓毫なりしもの二月には八圓近くに上り三月に至りては更に増加して九圓二十五錢に達せり。而して本線の營業成績に就て特に注意すべきは長距離乗客の多きことにして日本内地の鐵道に就て見るに平均一人乗車里程は東海道線に於て二十五哩此平均收入三十八錢九厘日本鐵道線に於て二十一哩收

嶺南鐵道

京本線

京元線

入三十二錢二厘一般を通じては平均二十哩收入三十錢内外なるに本線は一月上旬の調査に於て平均一人四十六錢收入八十四錢一厘の多額を示せり。更に本線の三浪津より南下して馬山浦に至る線路即ち嶺南鐵道は明治三十八年六月に竣功開通し其他公州より木浦に至るの支線即ち京本線及び京城より元山に達する京元線は共に韓國の富源開發上緊要なるものに屬するを以て逐次敷設の運びに至らんとせり。

京義鐵道

京義鐵道

京義鐵道は我が帝國政府の直接經營に係り明治三十七年五月以來敷設に着手し京城龍山を起點として北方に向ひ松都平壤等の市府を経て韓國々境新義州鴨綠江畔に到り全線の延長二百九十六哩に亘る。其停車場を追擧すれば京城(十一哩)高陽(十一哩)坡州(十哩)長湍(十二哩)開城(十七哩)金川(八哩)平山(二十三哩)瑞興(二十一哩)鳳山(十二哩)黃州(十五哩)中和(十三哩)平壤(十六哩)順安(十六哩)肅川(十六哩)安州(十三哩)嘉山(十八哩)定州(十九哩)宣川(四十五哩)新義州とす。

京釜鐵道が韓國の南半部を我が統治の下に立たしむると殆んど同一の効力

ありとすれば京義鐵道は北半部を同様の地位に置くものにして京釜、京義兩鐵道は相待つて我が對韓經營上根本的の勢力を扶植するものといふべし。而して鳴綠江より遼東の野を横斷し東清鐵道支線を経て關外鐵道に聯絡すべき二百數十哩の鐵道敷設せらるゝも亦近き將來にあるべく此鐵道にして敷設せらるゝに至らば一方は關外、榆津、蘆津の三鐵道に依りて北京に達し以つて全清國の鐵道に聯絡すべく又一方には東清、西伯利亞鐵道を経て全歐洲の鐵道に聯絡すべし。此に至りて我が日本との聯絡を顧みれば東京より東海、山陽の兩線七百六哩、門司、釜山間百二十海里、京釜、京義兩鐵道五百七十哩、遼東鐵道二百數十哩、關外、榆津、蘆津三鐵道五百五十哩を通算すれば總延長二千二百數十哩となり三國の首府を通過する僅かに數晝夜に過ぎず。果して然らば日清韓三國間に於ける交通は頗る敏速を加へ且つ東清、西伯利亞兩鐵道と聯絡しては世界の郵便線路となり歐亞二大陸に於ける旅客來往貨物集散の繁盛實に計り知るべからざるものあらん。此曉に到らば韓國の文明を啓發し殖産興業を助長し韓國の面目爲めに一大革新を來すに至るべし韓國の前途豈又多望ならずとせんや。

第三節 海運

海運

韓國の海運は陸運に比すれば早く發達したり、然れ共其文明的海運法は外人殊に日本人に依りて發達したるものなり。韓船は所謂支那ジャンクに似て蓆を以て帆と爲し極めて不完全なるものにして漁魚若くは近海の航運に堪ゆるに過ぎず。元來韓國には船材たるべき木材に乏しきを以て小舟と云へども甚だ多からず、故に韓國沿岸及び海外に於ける航運業は其大部分邦人の經營に成るものなり。唯北清地方に於ける航運は支那ジャンクに依るもの少からず其往來甚だ頻繁なるを見る。

韓國に於ける航運業は殆んど我が壟斷する處となれり、今各航路線を擧ぐれば左の如し。

日本郵船株式會社(命令航路)

- 一、神戸を起點とし門司、長崎、釜山、仁川、芝罘、太沽へ寄港の上牛莊に至る。
- 一、神戸を起點とし門司、長崎、釜山、仁川、大連、旅順口、太沽へ寄港の上芝罘に

日本郵船

大阪商船

至る。

- 一、神戸を起點とし門司、長崎、釜山、元山、城津へ寄港の上浦鹽に至る。
- 二、神戸より門司に寄港し釜山、仁川に至る。

大阪商船株式會社命令航路

- 一、大阪、鎮南浦の兩地を發し往復とも神戸、馬關、釜山、木浦、仁川に寄港す。但し冬季鎮南浦結氷中は仁川を終點とす。
- 一、大阪、群山の兩地を發し往復共神戸、門司又は下ノ關、釜山、馬山、木浦に寄港す。

大家汽船部命令航路

大家汽船

- 甲線、門司(下ノ關)を起點とし濱田、境、宮津、敦賀、浦沙、敦賀、七尾、伏木、夷、新瀨、函館、小樽、コルサコフ、小樽、浦沙、元山、釜山を経て門司(下ノ關)に歸航す。
- 乙線、小樽を起點とし函館、夷、新瀨、伏木、七尾、浦沙、七尾、敦賀、宮津、境、濱田、門司(下ノ關)、釜山、元山、浦沙、小樽、コルサコフを経て小樽に歸着す。

大川運輸

大川運輸株式會社

九州鐵道連絡線として釜山、唐津間を每週二回發航往復共對州嚴原に寄港す。以上の外定期船としては釜山、馬山間を航海する八頭司組の汽船あり。仁川、堀久回漕店に屬する汽船の鎮南浦より仁川、群山、木浦、釜山を経て元山、北關に至るあり。又藤野所有汽船は大阪、神戸、下ノ關、釜山、元山間を航し韓國郵船組、大韓協同郵船會社、大韓通運會社等の汽船は沿岸及び諸島嶼の間の航海をなす。而して是等の汽船は其船籍を韓國に有すと雖之れ開港地外を航するの便宜上籍を韓國に置きたる迄にして其所有主は多く本邦人なり。又此以外に於ても不定期船として尼ヶ崎汽船、東洋貿易汽船、宮崎汽船、宇田汽船等は釜山を寄港地として仁川若くは元山方面の航海に従事し尙山陰、山陽兩道中韓國と商業上の關係ある土地にして汽船若くは西洋形帆船を以て航運を營めるものあり。露國東清鐵道會社の汽船にして浦沙を起點とし元山、釜山、長崎、仁川及び清國各港に航するものありしがこは日露戰爭の爲め消滅したり。韓國には河川の流通多く之れを修繕すれば舟行の便を得るもの少からずと

河川交通

雖自然に放棄して顧みざるを以て三四大河の下流を除きては航運に供すべきものなし。(水誌の部参考)

第四節 郵便

郵便

韓國に郵便制度の設けられたるは近年の事に屬し往時は地方應往復の公文書を國王の命に依り公用飛脚の名を以つて各部落間に設けられたる驛遞方法によりて配達せられ此特種權に浴する者は國王の外官位を有するものに限られ一般公衆は旅行者に托して送達するに過ぎざりしが明治二十八年元大阪郵便電信局長山田雪助氏韓國郵便顧問に聘せられしより以來初めて我郵便條例に倣ふて郵遞規則を制定し茲に近世的郵便制度を施設せり其後幾ならずして同顧問は解備せられ郵便制度亦衰退の狀を呈せしが明治三十一年頃農商務協辦閣商鑄郵便制度研究の爲め歐米各國を歴遊し佛國郵政廳員クレマンソン氏を招聘して郵政顧問となすに及び再び郵便制度を組織し三十三年一月を以て萬國郵便聯合に加盟し外國と郵便物の直接交換を開くと共に内國郵便も亦大

體制を萬國郵便條約に執りて内外共通の制を實施せり。

爾來成績稍見るべきものありて其郵便線路の如きは京城釜山間、京城義州間、京城元山慶興間、元山釜山間の陸便を幹線とし尙ほ京城木浦、京城仁川、平壤鎮南浦等數多の枝線を設け多くは毎日便とせり。然れ共京城仁川間及び我郵便船に托するもの、外は人肩馬背に依るものなるを以て容易に事業の發展を見るに至らず取扱事務の如きも僅普通及書留郵便物の程度に止り爲替貯金は勿論小包郵便物の如きも未だ之れを施設するに至らず明治三十四年中の取扱高僅に百三十八万通を算するに過ぎざりき。而して其局所の如きも總局一、一等局十七、二等局二十八外に郷長郡長次席の兼掌する郵便取扱所なるもの約三百ありて普通郵便書留及び小包を取扱ふに過ぎず。其設備不完全にして通信の確實敏速を欠き不便言ふ可らざるものあり。

第五節 電信及び電話

電信及び電話

韓國に於ける電信は我政府が大北電信會社に與へたる免許狀に據り同會社

が長崎釜山間の海底線を沈設し明治十七年二月より在釜山帝國電信局に於て通信を開始したるを以つて之れが嚆矢とす。尋て清國の出資經營の下に明治十八年十一月には仁川京城義州線成り二十一年には京釜線開通し二十四年には京元線の開通を見るに至れり。現在の線路は京釜線京城元山鏡城線京城義州線京城仁川線を幹線とし尙ほ鎮南浦群山木浦馬山等の開港地雲山般山等の金鑛所在地に通ずる枝線を有す。然れ共其回線計劃の如き頗る杜撰にして迂回複雑幾多の中継所を経山するを要し通信の敏活得て期すべからざるの狀態に在り。其局所は總局一、一等局十七、二等局十四を算するも之れ亦郵便同様往々遲着を免れず。

電話は現時京城仁川間京城麻浦間京城平壤間開城經山京城水原間桃洞契永登浦間等に設置しあるも加入者の數全體を通じて僅に四五十名を出てず。

第六節 在韓日本通信機關

韓國に日本郵便局を設けたるは明治九年十一月に於ける釜山の置局を以て

在韓日本通信機關

之れか濫觴とす。則ち我三菱會社の郵船初めて韓國釜山に航路を開きたるを機とし前島驛遞頭の申請に依り大久保内務卿より正院に稟請し其允許を得て之れを施設したるものにして、時の釜山在勤外務七等出仕近藤眞鋤氏事務兼掌を命ぜられたり。爾來船路の擴張と居留民の増殖とに伴ひ漸次其數を加へ明治十三年四月には元山に、同十六年十二月には仁川に、三十年十一月には木浦に、三十二年八月には鎮南浦に、同年十一月には群山及び馬山に、同三十四年三月には京城及城津に、同年六月には平壤に、何れも帝國郵便局の設置を見るに至れり。出張所は明治二十一年七月京城に仁川局出張所を設けたるを初めとし現に開城永登浦釜山海岸大邱草梁永同の六箇所あり。又郵便受取所内地の三等局と同様は明治三十二年五月龍山に開きたるを始めとし三十五年末迄に五箇所三十六年中に入箇所三十七年中に二十二箇所、三十八年に入りては十三箇所を設け現在計六十三箇所に達し尙目下計劃中のもの局三、出張所四十、受取所六あり。而して現在線路は京釜京仁の兩鐵道并に沿岸の各航路を樞軸とし尙各所に陸便を設けて本邦人遞送人を使役し郵便物の遞送に従事せしめ又軍用船及

取扱事務所

以野戰便にも事情の許す限り托送の途を講じ別に水産組合の巡邏船にも受取所を設けて沿海漁民の便に資せり。

其取扱事務は全然内地同様にして内外國通常郵便、小包郵便、郵便爲替は勿論郵便貯金及び集配事務をも取扱ひ在韓内外臣民をして各本國に在ると同様の利便を享受せしめつゝあり。今明治三十六年度に於ける我が郵便機關の取扱高を見るに郵便物八百二十万八千七百二十一箇郵便爲替受拂口數十萬二千四百三十八口、金額二百二十四万六千五百五十二圓、郵便貯金受拂口數二萬百三十一口、金額十四萬八千三百四十三圓に達せり。最近調査に係る在韓國日本郵便局所及び軍用通信所并に京釜鐵道停車場内電信取扱所の現在左の如し。

在韓郵便局

- 京城 平壤 群山 元山 鎮南浦 木浦 城津 馬山
- 釜山 仁川 (以上局)
- 草梁 大邱 永登浦 開城 永同 釜山海岸 (以上出張所)
- 龍山 水原 平澤 成歡 烏致院 太田 赤登津

- 黃州 筆洞 麻浦 海州 於青島 助浦 花開洞
- 龍湖島 兼二浦 義州 安東 江景 全州 公州
- 萬頃 馬九坪 濟州島 榮山浦 木浦巡邏船内 光州
- 統營 松真 猪島 巨濟島 馬山巡邏船内 舊馬山浦
- 昌原 晉州 龜浦 三浪津 密陽 清道 倭館 金泉
- 秋風嶺 鬱陵島 釜山巡船内 扶桑 釜山鎮 東萊 虎島

在韓國軍用通信所

- 鎮南浦 平壤 元山 開城 車輦館
- 安川 定州 義州 龍岩浦 大邱
- 密陽 洛東 可興
- 京釜鐵道停車場内電信取扱所
- 水原 成歡 烏致院 太田 草梁
- 龜浦 三浪津 倭館 金泉 秋風嶺

韓國政府所轄の通信機關は要するに其設備幼稚不整頓なるを以て信頼して通信を委託し難く且つ韓國政府に於ても是等通信機關の爲めに年々三十餘萬圓の損失あり加ふるに在韓本邦通信機關と其稅率等を異にするものあるが爲めに往々行違を生ずる等種々の不便不都合を免れざるを以て韓國内に於ける通信制度を一定し且つ大に之れを革新するの必要を認め茲に彼我交渉の上韓國政府所轄の通信機關を擧げて之れを本邦政府に委託するに至り明治三十八年四月一日を以て日韓兩國政府代表者は左の取極書に調印せり。是れよりして韓國の通信機關は確實に敏達に整頓し大に内外人の信頼を博するに足るものあらん。

取極書

取極書

日韓兩國政府は韓國の通信機關を整備し日本國の通信機關と合同聯絡して兩國共通の一組織をなすを以つて韓國の行政上竝に經濟上得策なりとし且つ之れが爲め韓國の郵便電信電話事業を日本國政府の管理に委託する必要を認め大日本帝國特命全權公使林權助及大韓帝國外部大臣李夏榮は各相當の委任

を受け左の取極をなす。

第一條 韓國政府は其國內に於ける郵便電信及び電話事業宮内府專屬の電話を除くの管理を日本國政府に委託す可し。

第二條 韓國政府の既設通信事業に關聯する土地建物器具機械其他一切の設備は本協約に依り日本國政府の保管に移るものとす。

前項土地建物其他の設備に關しては兩國の官憲會同の上財産目錄を調製し以つて他日の證とす可し。

第三條 韓國の通信機關擴張の爲め日本國政府に於て必要とする場合には國有の土地及建物は無償にて之れを使用し及一私人の土地建物は之れを有償にて收用する事を得。

第四條 通信機關の管理及財産の保管に關しては日本國政府は自己の計算を以つて善良なる管理人の責に任す可し。

通信機關の擴張に要する費用も亦日本國政府の負擔たる可し。
日本國政府は通信機關の管理に關する收政狀況を韓國政府に公示す可し。

第五條 日本國政府が通信機關の管理若くは擴張上必要とする設備並に物件は一切の課税を免除せらる可し。

第六條 日本國政府の管理權及業務擴張に抵觸せざる範圍に於て現在の通信院を存置するは韓國政府の任意たる可し。

日本國政府は管理及擴張の業務に關し可成多くの韓國官吏又は使用人を用ゆ可し。

第七條 郵便電信及電話に關し従前韓國政府が外國政府と協定したる事項に於ては日本國政府代て其權利を行使し其義務を履行すべし。

遞信機關に關し將來新に韓國政府と外國政府との間に協定の必要ある場合に於ては日本國政府は韓國政府に代つて其協定の責に作す可し。

第八條 日本國政府と韓國政府との間に從來成立せる通信機關に關する各種の協定は本協約に依り當然改廢變更せられたるものとす。

第九條 後來韓國通信事業發達の爲め日本國政府が既成設備の管理保管及新事業擴張に費したる出費に對して十分の收益を生ずるに至るときは日本國

政府は收利の内相當の部分を韓國政府に交附す可し。

第十條 將來韓國政府の財政に十分の餘裕を生じたる場合は兩國政府協議の上通信機關の管理を韓國政府に還附す可し。

明治三十八年四月一日

特命全權公使 林 權 助 (印)

光武九年四月一日

外務大臣 李 夏 榮 (印)

第三編 處誌

處誌

日本に於て全國を行政區劃の名稱によりて唱呼するの外別に關東關西といふが如き概括的名稱若くは畿内といふが如き別名あると均しく韓國に於ても之れに類する名稱あり。則ち京畿以外に三〇面あり三面とは京畿に面する三地方をいふものにして三〇南〇關〇西〇關〇北〇是なり。三南とは南方の三道の義にして慶尙全羅忠清の三道を總稱し關西とは黃海平安の兩道をいひ關北とは江原咸鏡の二道をいふ。此三面は獨り地理上より此の如き區劃を見るを得べきのみならず歴史政治上若くは産業上に於ても又或は風俗若くは人種問題に於ても三面各其發達を異にし特長を異にするものあり半島を研究する者の注意すべきことなり。又全羅道を湖南忠清を湖西といひ此兩道を合して兩湖といふは錦江を境界としての名稱にして錦江は往古湖江と稱したればなり。其他慶尙道の一名を嶺南京畿道を畿内江原咸鏡二道を關東とも稱す。

慶尙道
概説

第一章 慶尙道 (南道北道)

概説

慶尙道は韓國の東南角を占め西は忠清全羅兩道に連り北は江原道に接し東日本海に臨み南は朝鮮海峽を隔て、其海角近く我が對馬と相望む。北に太白山を負ひ其山脈の延びて西及び北に走るもの鵝城主屹嶺陽青華俗離黃岳德裕智異等の諸山となり以て忠清全羅の境界を劃す。洛東の江流此に分水し本道の中央を貫流して灌溉交通の便を加へ其流域の曠漠たる平野は地豊沃にして農産物を供給し。南方一帯の海岸は多くの港灣門戸となりて出入に便利を與ふ。而して我日本と最も近きを以て古來彼我の關係極めて深く往古は嘗て我が殖民地たりしが如き觀あり新羅の時代にありたる斯盧六村の如きは其最も著名なるものなり。

本道の幅員は東西約四十里乃至三十里にして南北約六十里より四十五里に至る。洛東水系以東を左道といひ以西を右道と稱し左道は平地少く地稍瘠せ

て民貧しく儉嗇の風あれども右道は土壤膏肥にして人富み豪奢宴安愉惰にして學事を勉めざるの風ありと稱せらる。

釜山

釜山は慶尙道の東南角北緯三十五度六分東經百二十九度三分に位す。我が對島を相距ること十八里長州馬關より百二十海里の北西にあり港灣廣濶にして水濶深く巨艦を泊すべし。灣口には絶影島横はり邦人之れを牧の島と呼ぶ周圍約八里南北に短く東西に長く大陸と相抱懷して釜山港を構成す。其東端の大陸より斗出せる一角と相對するもの之れを東面の港門となす。門の北側に五六の怪巖海中に兀立し之れを五大島と稱す。此間海水深くして大艦の出入を妨げず。別に本邦居留地の一隅と絶影島の一角と僅に海峽を形くるあり之れを西南面の港門となす。水深三四灣に過ぎざるを以て輕吃水の汽船にあらざれば通航するを得ず。

釜山は最も我邦と近邇し交通至便の位置にあるを以て開港場中本邦と關係を有すること亦最古し。初め對馬藩主宗氏の朝鮮と交通を開くや齊浦(熊川郡)

釜山

沿革

釜山浦(現居留地の北方なる古館鹽浦蔚山郡)の三個所に本邦人を居留せしめ往來の使船商船常に之れに繫泊せり。然るに永正七年朝鮮官吏と居留民との間に大騷擾を惹起し一時隣交を絶つに至りしが大永年中媾和新に成り天文十三年三浦の居留民悉く釜山浦の一個所に移住したり。尋て文錄年間豊公征韓の役起るや隣交又斷絶し徳川氏政權を握るに及び再び舊交を温め通商條約を締結せり己酉條約則ち之れなり。後萬治元年釜山浦は船舶の碇繫に不便なりとの理由を以て移館の要求をなせしも議容易に決せず爲めに我が使節宗家の家臣津崎江兵庫割腹して死したり。朝鮮政府其義勇に感じ遂に寛文十二年に至りて草梁に移館の約を結ぶに至れり。因て直に土工を起し延寶六年新館の經營全く成り一月擧つて移館せり。是れ即ち現時の日本居留地なりとす。當時地名を倭館と稱し其地域は周圍僅に二千二百餘軒に過ぎざりき。明治九年二月に至り更に修好條約を締結し茲に本邦專管居留地を得爾來外國貿易港として今日に及べり。

日本居留地

現今の日本居留地は廣袤十萬餘坪に亘り北に鋒臺山を負ひ南絶影島に對す。

中央に一小丘あり龍頭山と稱し上に神祠あり龍頭山神社といふ。龍頭の一脈岐れて東岸に突起するもの之れを龍尾山と稱す我が藤肥州を祠る。龍頭龍尾の二山共に鬱蒼たる老松を以て蔽はれ以て居留地の風致を添ふ。市街は總て此二丘を包圍して成れり。東北部を北濱町と云ひ東にあるを本町常盤町琴平町とし南にあるは辨天町入江町幸町南濱町にして西には西山下町西町桶屋町鍛冶町あり。猶居留地外にあるものを大廳町寶水町富平町とす。家屋の構造は悉く日本風にして區劃井然其秩序制度の備はれること優に韓國中第一位を占む。龍頭山の半腹眺望頗る佳なる處洋風二層樓の突起するもの我が領事館とす。郵便電信局電話交換局居留地役所商業會議所商品陳列館公立釜山高等尋常小學校圖書館公立病院大谷派本願寺別院妙覺寺智恩院別院第一銀行支店第十八銀行支店第五十八銀行支店長崎貯蓄銀行出張所日本郵船會社支店日韓商船會社大阪商船會社支店釜山電燈會社釜山水産會社釜山倉庫會社埋築會社朝鮮時報社等皆市街樞要の地に在り。其他劇場西洋料理店湯屋旅館寫真店等百般の需要に應ずべき各種の商店殆んど備はざるなく宛然日本の一都會を構

埋築工事

成し人をして身の國外に在るを覺えざらしむ。居留地の人口は明治三十六年末調一萬七百七十六人にして戸數二千百十七戸なり。之れを明治十三年調人口二千〇六十六人戸數四百〇二戸に比すれば人口に於いて八約倍餘戸數に於て約五倍餘の増加を見る。其居住者は山口縣人最も多く次は長崎縣人にして以下大分福岡廣島大阪熊本島根各縣の順次なり。

釜山日本居留地は方里僅に十萬餘坪(六町餘)にして中央に位する龍頭山及び龍尾山を除けば七萬餘坪に過ぎず到底釜山港の發達に伴ひ逐次増加し行く幾多居留民を包容すると能はず且つ英韓條約に均霑して土地を購買し得べき居留地の西方富平洞附近は埠頭を距ること遠きを以て將來發展すべき市街として適當ならず。茲に於て居留地の有志者は北濱地先を埋築するの計劃を立て明治三十三年末を以て韓國政府の許可を得埋立の面積を四萬百九十一坪とし之れを第一期第二期に分ち先づ第一期として三萬千六百三十五坪を埋築することゝ爲し釜山埋築株式會社を起し工事は我か大倉商會に於て之れを擔當し其第一期工事は既に略完成したり。

京釜鐵道停車場

京釜鐵道停車場は釜山鎮の北に在り別に支線を派して居留地との連絡を通ずるの計劃ありといふ。

海上交通

海上交通機關としては日本郵船會社、大阪商船會社汽船の定期に航するあり日本支那及び沿岸各港に直通し、沿岸航路線としては八頭司組、仁川堀久回漕店に屬する汽船あり、不定期船には尼崎汽船、東洋貿易汽船、宮崎汽船、宇田汽船等ありて日本韓國間及び韓國沿岸の航路に従事せり。其他九州鐵道連絡線として釜山、唐津間を航する大川運輸株式會社の定期汽船あり。埠頭常に汽船の碇泊を見ざるなく本邦間の交通の如きは毎日若くは兩三日毎に之れ有り交通の至便なること本邦内地邊陲の都邑に勝ること萬々なり。而して明治三十六年中釜山港に出入したる汽船は入港二千〇十八隻、五十三萬四千六百六十一噸、出港二千〇十隻、五十七萬二千三百八十七噸なり。

漁業

本港は又韓海に於ける本邦漁業者の集合地にして其往復必ず此地を經過せざるなく船數年々約二千隻の上に出て碇泊の漁船四時常に絶えず殊に春秋の漁季には一時に數百隻の集合を見ること珍しからず。捕魚は釜山水産株式會

釜山鎮

社に於て取扱はれ其金額年々十四五萬圓に達す。

釜山鎮

釜山鎮は東萊府に屬し釜山灣勢の北に極まる所に在り戸數三百戸、人口約千五百を有す。人民多く我が釜山居留地に依りて生活し概ね殷富にして此を他郡に求むるも得易からずといふ。

古館

鎮の東隅に城廓あり高さ二間餘、周圍十餘町とす。昔日我が國との貿易は多く此地に行はれ尋て古館に移り其後現今の居留地に轉したるなり。此地に近き峰臺山の支脈には文祿の後小西行長の築きし城趾の遺蹟尙存し過客をして往年豐太閤の雄圖を想見せしむ。釜山鎮の南に古館あり戸數二百、人口約一千、我が天武十三年より寛永十二年に至る迄の互市場にして現今尙日本語を解するもの尠からず。

草梁

草梁

草梁は東萊府に屬し釜山と相接し右は釜山居留地を控へ左は古館及び釜山鎮に連り前は釜山灣に臨み背後に烽山を負ふ。監理衙門所在地にして東萊監

理署警務署あり。元來此地は漁村にして漁期に際しては惡臭鼻を撲ち殆んど通行するに堪へざりしが京釜鐵道會社の南部出張所建設せられ社宅連り停車場埃成せしより頗に其面目を一新せり。殊に停車場の一端には釜山海關支署あり又大阪商船會社、日本郵船會社の出張所あり韓國運輸會社あり其他釜山に通ずる沿道十數町の間には郵便受取所電話所を始めとし本邦人の商店連續して居住者逐日増加す。

龜浦

龜浦は東萊府に屬し洛東江口の左岸に在り。釜山より慶尙道の西南、北部地方に水路交通の燒點たるのみならず洛東江の海口には險灘多く舟楫の便を缺くが爲め釜山より内地に輸送すべき貨物は陸路龜浦に至り龜浦より三浪津守山津、沙門津、倭館等の各地に溯上するを常とし龜浦は其中繼所なるを以つて釜山と相對して商業上樞要の位置を占む。故に釜山開港當時は寂寥たる一寒村なりしが今や戸數二百、人口千五百餘に達し有力なる商賈在り。龜浦の下流に下端浦あり洛東江口を扼し著名の鹽産地たる鳴湖島と相對す。釜山を距る二

金海

里商船漁船の集合するもの多し。
 金海 (烈濟國金官國)
 金海は龜浦の對岸三里を距る處にあり東は鬱峯連立すれ共其他は平坦にして概ね田圃相連り農産物多く又水産に富み百貨輻輳商業般振の地なり。金海城は繞らすに石壁を以てし四門を開き城内戸數七百人、人口二千二百有餘を有す。豐太閣征韓の役一時日本水軍の根據地たり。

三浪津

三浪津は密陽府に屬し洛東江の東に廻流して巨零江と合する所にあり。地勢山を負ひ水に臨み船舶の便あり密陽、清道、栗山、彦陽、慶山、慶州等東北諸邑に對する貨物の集散地にして洛東江半面の市場たり。戸數百七十戸、人口六百八十人を有し商賈は概ね殷富なり。京釜鐵道停車場は此地を距る半里柳島といへる一小村にあり。京釜鐵道の是より分岐して馬山浦に達する一線は明治三十八年六月開通せり。

密陽 (歸化、密山)

密陽

密陽は古新羅の椎次郡にして後ち密城密州歸化凝川等の名を経て景德王の時始めて密陽郡とせられたり。三浪津より北向し南川の東岸に沿ひ數里の栗林を貫き南川を渡れば本府城に達す。此邊南川の沖積層より成り地味膏腴漑の便宜しく沃野渺茫として水田麥畝參差し登穀數萬石に上り海外輸出米の産地なり。

府城は東西北の三面は丘陵を以て圍繞し南は平野を擁し東南に凝川を控へ廓壁の丘上に延長する凡そ四千六百七十尺に及ぶ。廓内は概して平坦にして人民多く其内に住し官衙民房相交り毎月の例市は殷盛なり。人家約八百人口約四千内外とす。郡衙の所在地は密陽城の中央にあり。城廓水に臨む處高丘に凭りて樓臺を起せるを嶺南樓といふ現時我が憲兵守備隊の駐在所たり。密州衙門中凝香門の傍には我が陸軍電信隊の駐在所あり城内には日語學校の設けあり。京釜鐵道の停車場は府城の西方十五六町とす。

榆川

榆川は清道郡にあり。西北山を負ひ東南川に臨み氣候溫暖にして甚だ起居

榆川

清道

に適す。山には龍角山華岳山あり。水には紫川雲門川榆川あり三水此處に合し密陽に赴きて凝川となる。古來慶尙道樞要の驛院にして密陽大邱間の通路は必ず此に依り又慶産物に富める東倉及び大川里地方より慶州に至るの分岐點なり。戸數は現時五十戸人口二百内外に過ぎず。此地川には鯉魚銀魚鮎多く山には松栗栗實を産す。京釜鐵道停車場は約十町の北に在り。

清道 (道州伊山)

清道は清道郡にあり。城の内外通じて約三百戸人口一千人とす。郡衙は清道城内に在り是れ即ち古の伊西小國なり。京釜鐵道停車場は清道城を距る西北一里にありて南に鰲山を負ひ東北は雲川を隔て、烏惠山に對す。此地方往々礫礫の地なきにあらざと雖概ね沃野にして且つ氣候溫暖飲料水の如きは最も佳なり。

慶山

慶山は慶尙郡に屬す。古の押梁小國にして戸數二百人口二千に滿たず多く城内に在り。此地東には東山あり西に聖岩山あり北は曠野に連りて遠く栗川

慶山

に及び農産物尠からず。土民は一般に農を主とし、米麥等の外柿、栗を産し所謂大邱柿と稱するものは此地の産を多しとす。郡衙は城内に在り。市日は陰曆毎月五十の兩日にして五の日は邑内に、十の日は郊外に開かる。此地京釜鐵道停車場あり。

大邱 (達城)

大邱は慶尙道の中央に位し南韓に於ける唯一の都會なり。釜山、京城間の要路に當り本道七十餘郡中の四十餘郡及び全羅、忠清、江原各道の重要市邑に對し交通至便の形勢を保ち且つ洛東江の水運は更に是等要地間の聯絡通運を利すること尠からず實に天與の商業地たり。

大邱の地勢を按ずるに八公山は東北に屹立し西には臥龍山あり。南は琵琶山を負ひ東西北の三面は五里若くは二里に亘る平野たり。又西方に琵琶江ありて其源を東方永州郡に發し河陽、慶州等を通る、支川を集め大邱の北方に迂回して平野を貫き西に流るゝこと約三里、舊江蒼に到りて洛東江に合し南下して海に注ぎ以て運漕の利便を與へり。

大邱

土地

商業

大邱府城は凡そ二百年前時の觀察吏閔應珠の築く所なりといふ。城壁高さ二間餘周圍二十町餘石を以つて疊み東西南北に四個の樓門を設けたり。南門を嶺南第一門と稱し釜山方面に向ふ。西門を達西門といひ北の方遙に京城に通ず。又北を拱北門東を達東門と稱ふ。南門を入り一路直に觀察府の右方に至り左折して郡衙の前を過くれば達西門に出づ。此大街を鐘路といふ。之れより分岐して細路長く四隅に達す。城内最も般振の區は則ち鐘路にして商賈櫛比し春秋二期の令市には此處市場の中心たるなり。城内は瓦葺の家屋相半すれ共城外には藁屋多く内外に連擔密集せる總數は五千戸と稱せられ人口は凡そ三万内外なりといふ。

府城の周圍は曠豁なる平野にして田畝遠く連り南は慶山清道に及び西は玄風に達し北は漆谷に到り其間官道四通す。此邊地味肥腴にして灌漑の利あり且つ水害を蒙ること少きを以つて瘠瘦苦くは浸水の地に非らざる限りは概ね開墾せられて殆んど荒蕪の地を見ることなし。

大邱は商業地としては實に韓國内地に於ける市場の冠たるものなるべし。

市場

其地交通往來の要衝に居り陸に水に出入運輸の便に富むこと内地に於て他に見る可らず。故に此地に吞吐する貨物は其額實に巨大なるものあり。概算に依れば輸出の部にありては凡そ米二十萬石、大豆十萬石、牛皮四千萬斤、其他雜穀雜貨、藥材等を合して價格大約三百萬圓に達すべく輸入の部にありては鹽十萬石、石油三萬五千箱、マツチ六千箱、金巾五萬反、木綿十萬反、紡績絲一千俵、其他絹織物、藥材等を合して是れ又大約三百萬圓に達すべく兩者合計六百萬圓。内外に及び其内五分の二は大邱市場に銷售せられ其餘は此地を經過して洛東江を下し下るものは釜山に向ひ上るものは洛東、金泉等の各市場に配布せらる。

大邱の開市には例市と令市との二種あり。例市は毎月東西兩門外に於て開かる。陰曆二、七の定日を西門外とし四、九の定日を東門外とす。當日は商賈顧客共に十數里の遠きより來たり頗る雜沓す。西門外の市は殊に盛にして東門外に比すれば總べてに於て倍加すといふ。令市は素と政府の命令を以つて開かれたるものにして陰曆二月と十月とに開かれ其期間は各三十日なり。此令市は實に當國に於ける屈指の大市にして商賈の全國より集合するもの約一萬

顧客の群集は實に數十萬と算せられ大邱全街立錐の地なきに至る。

此地の觀察府は城内の中央に在り。鎮衛第三聯隊第一大隊は鐘路南街の東側に營す。鐘路西街には大邱郡衙あり。又邦邊司、電報司共に觀察衙門の東隣に設けらる。我が駐在兵は舊の京釜鐵道事務所にあり憲兵隊は西門外遼城山の東北麓なる舊の遼一門にあり通信部は其東隣に設けられ警察署は城内郡衙の前面に在り。又京釜鐵道停車場は東北門外に在り其規模宏大にして用地七萬坪を有す。此他本邦郵便局あり日語學校には遼城、中興、日新の二校あり、英米佛人の設立せる教會堂あり。而して近時日本人の此地に移住する者甚だ多く其數既に數千に達すといふ。

大邱と各重要市邑との距離は左の如し。

京城六十七里	釜山三十一里	晉州二十六里	馬山浦二十一里
慶州十五里	星州七里	尙州十八里	安東二十里
浦項十六里	蔚山二十五里	全州四十一里	公州三十九里
沙門津三里			

倭館

倭館は仁同郡の管下に屬す。東は直に洛東江岸に臨み西北は山を負ひ南方一帯は洛東江の沖積地にして稍廣濶なり。戸數約一百、人口五百餘と稱す。船は此地より上流十四五里に溯るを得れ共大抵此處を終航點として龜浦、釜山等に往復するを常とす。釜山、金海地方より若木、金泉、星州、仁同等へ輸送する貨物は一度必ず此地を經由するを以つて戸數の多からざるに比して物貨集散の狀盛なり。京釜鐵道停車場は倭館の對岸石田にあり。

金泉

金泉は金山郡にあり甘川の河岸に位す。南に扶桑、倭館を控へ北は金山、秋風嶺に接し東の方甘川に沿ふて開寧、善山に連り交通至便なるを以つて例日の市場の如き其般盛の度大邱に劣らず。商業地として亦大邱以北稀に見る所なり。市日は例月陰曆五十の日にして商品中米、藍、反物類最も多し。此地は古來の互市場にして遠近の人民常に集合するが故に人情自ら輕薄にして淳朴ならずとす。

東萊

東萊 (長山、蓬萊)

東萊は釜山居留地を距る北方二里に在り古は長山國又は萊山國とも云へり。現時東萊郡主の居城たり。城は北に山を負ひ山頂より南下して平地に達し高さ二間餘周圍一里弱。市街は城の内外に連擔し商賈往來して繁華の地たり。戸數約千二百餘、人口四千八百と稱す。學校二あり一は韓語學校にして専ら漢文を教授し一は日語學校にして漢文及び日本語を教授す。東北約半里を距て、東萊溫泉あり。金井山脈背後に屏立し風光明媚なり。溫泉は消化器病其他婦人病等に宜しといふ。溫泉場を距ること二里にして梵魚寺と稱する著名の巨刹あり。開濶なる風景又掬するに足る。

蔚山

蔚山 (河曲、島城)

蔚山は西北に大河を負ひ南は海岸に臨み北方に灣入すること約二里灣内幾多の屈曲ありて船舶を泊するに適し釜山以北に於ける慶尙道第一の港なり。戸數は八百戸、人口三千餘人なれ共居民は多く農を業とし商業を營む者尠し。此地露國太平洋捕鯨會社の根據地にして其南岸に丘陵を負ふて斗出する小地

長生浦

角は其裁解場なり。本邦捕鯨船亦碇泊すること多し。郡衙は市街の中央に在り人家稠密五十の日を以て開市す。慶州彦陽附近の貨物皆之れに蒐集し頗る繁榮の地なれ共人情は稍狡猾なり。此地米穀の産出多きを以つて出穀季に至れば我が商人の來往繁しといふ。

助魚浦

新場基

又蔚山灣内に長生浦新場基、助魚浦等の諸部落あり。長生浦は灣内の稍中央に位し。水底淺からず稍巨船を碇泊するに足り漁船帆走船の風浪を避けて來たり泊する者常に絶えず。戸數三十戸、人口百三十餘人居民は専ら漁業を營む。此地は年々韓海捕鯨船の根據地とせらるゝを以つて其季節には平均一日一頭の鯨肉を裁解し鹽漬として釜山、長崎、熊本等の各地へ輸送す。人情は概して輕薄にして捕鯨季節には韓人の集來する者多しと雖浮浪の徒多く裁解者に強請して肉を持ち去り拒めば往々腕力に訴ふるが如き舉動ありといふ。新場基は灣の北東にあり陸路、慶州等の各邑に通ずるを以つて商船輻輳し本邦人も亦來往す。助魚浦は灣口の北岸にあり其前面一小屈曲を爲し本邦漁船の碇泊所たり。

慶州

慶州 (辰韓、鷄林)

慶州は蔚山郡に隣す。新羅の故都にして此地方古代日本人種の殖民地たり昔脱解の時鷄林と稱したるも此區劃なり。郡の西北は山岳を以つて圍繞せられ東南は平地にして田畝多く土地豊沃なり。郡衙は市街の中央に在り。産物は米大豆を主とし市は毎月二、七の日に開かる。居民は農商相半し出穀期には釜山其他へ輸出する米穀非常に多額に上り一般の人民豊かに生活す。

此地附近南山と稱する礦山ありて白色、青色、紅色等の玉石を産す。其名八道に高く方今韓人の愛玩する眼鏡は多く南山産出のものなりといふ。

浦項

浦項

浦項は慶尙道の北海岸迎日灣の西奥に在り戸數九百餘、人口一千五百餘あり。東方は海岸に接し北方は河を帯び西南隅には山岳峙立す。而して北方一里の平地は殆んど鹽田を以つて充塞せらるゝを見る。灣内巨船を泊するに難しと雖避風には最も便利なる港灣として漁船等は常に出入あり。居民は農商漁等にして市日は例月一、六、四、九の日なり。此地は釜山以北の製鹽地にして一箇年

の製造高大凡そ一萬六千餘石に達す。我が商買も時々來往す。

往古辰韓の我國と交通したる時代に阿珍浦より鬱陵島、隱岐島を経て出雲國松江灣に至りたりといへる阿珍浦は則ち此附近の地なりといふ。此地陸路より慶州、長稽、迎日、興海、安東等の諸邑に通じ船舶の碇泊するもの多く貨物輻輳し釜山以北沿岸有數の商業地にして古來長稽、木浦と並稱せられたる都邑なり。

豆毛浦

豆毛浦は慶尙道の北岸に在り灣口は南に而し稍屈曲するを以つて漁船の風浪を避けて來泊するもの多し。此地文祿役に於ける我軍古城址の今尙存在するものあり。本邦漁民此地を下の太閣と呼ぶ。其南海岸に人家約四十戸の村落あり居民は漁魚製鹽、農を營む。

大邊浦

豆毛浦の西南に太邊浦あり釜山より約八里、灣口南に而し前に一小島を横へ小船を泊すべし本邦漁民の寄港するもの尠からず、人家約五十、人口百五十餘、農又は漁業を生計とす。

西生浦

西生浦は豆毛浦より五六里の北岸に在り蔚山より五里、本邦人此地を上の大閣と呼ぶ。藤肥州が明の驍將麻貴の爲めに窺められたるは即ち此地なりといふ文祿役我軍の城址今尙殘存す。城は嶮に依り海に臨み天際に聳立し轉々當年の戰狀を忍ばしむ。人家約五十、農及び漁業を生計とし人情稍々狡獪なり。亦本邦漁船の碇繫地にして潜水器業者の納屋を構ふるものあり。

丑山浦

丑山浦は寧海郡に屬し迎日灣より北方二十里、慶尙道最北の沿岸にあり。灣口は東に向ひ内面稍廣く水深く百噸位の船舶を泊するに足り西南風を避くるに良し。附近本邦漁民の出漁する者多く此地は其根據地なり。住民は稍々狡獪にして本邦人漁業上の妨害を蒙ること多し。

安東(高昌寧國)

安東は慶州より京城街道を西北に進むこと二十二里、京城よりは四十八里に位し福州綾羅、古寧、昌寧等の別名あり。戶數一千戸餘と稱せられ住民は兩班多くして農商を營む者尠し。洛東江の大支流なる淡水は東北より流れて邑川と

安東

丑山浦

西生浦

合し府城の東南を繞り西南に去る。其南岸に映湖樓あり高麗の恭敏王南遷の時此樓上に於て宴遊し樓の扁額は王の染筆に係るといふ。西に西岳寺、歸來寺、臨清閣等の舊趾あり西岳寺には關帝廟を安置し、明將の日本軍を防ぐの時建てし者なりといふ。北には新羅古刹の墟趾あり、共に觀賞するに足る。昔時此地は新羅の要鎮たりしを以つて屢々百濟、高句麗の襲來すると所なりたり。此地より京城街道によりて順興、豐基を経て竹嶺の嶮を踰へ忠清道の丹陽、清風地方に達すべし。三國時代には新羅の兵此通路を経て百濟、高句麗の境土に侵入せしなり。

洛東津
ハクシツン

洛東津は尙州の東方にあり洛東江流に沿ひ江口を溯ること四十三里、江流舟航の最終點にして川幅三町余、水底約六尺、百石積の船舶を碇繋せしむるを得べし。此地より陸路烏嶺を踰へて忠清道の可興、迄十二里あり可興より再び漢江の水流を利用して京畿地方に運漕すべし。又北方に鎖售せらるゝ貨物は釜山より此地まで水運によりて輸出し以つて各邑に分配せらる。此地は實に水陸

洛東津

運輸の要衝たるを以つて江岸常に數十隻の船舶碇泊せざるとなく、三百余戸の人家は概ね漕運を以つて生業となせり。昔時豊公の役にも此地は糧道の一起點とせられ日清戰役にも此地を以つて兵站の根據地となし以つて可興に連絡せしめたり。

尙州(陀阿商山)
ウシヤウ

尙州は一名を洛陽と稱し北道の東端にあり西は蘆嶺山脈の火嶺に近く西北は京城西路によりて烏嶺の嶮を踰ゆれば忠清道の忠州に連り京畿に達すべく東は洛東江に臨み釜山に通ず。水陸交通の便に富むを以つて貨物輻輳し商業般盛にして古來富資の者多く又名士を出せること多し。人戸二千余と稱す。此地は古の沙伐國にして辰韓の始めて慶尙道に移殖するや此地を以つて其根據地となしたりといふ。豐太閔の役韓將李謚此城に據りて我軍に抗したるも小西行長の爲めに撃破せられたり。

善山(善和議)
シヤン

善山は尙州を南に距る六里、京城より四十九里とす。東は洛東江に臨み對岸

善山

尙州

は則ち仁同郡にして西開寧金山を越ゆれば秋風嶺の嶮あり。西南より流下し來たる甘泉河は此地に於て洛東江に合す。此地方灌溉の利多くして農産物に富み米穀の産出饒なり。京城街道に沿ふを以つて人馬の交通頻繁人家三百余戸生民は農商相半す。善山は沙門墨湖子なる者始めて佛教を新羅に傳へたるの地にして往昔文學の士を出すこと多く一時世人をして朝鮮の人才半ば嶺南にあり嶺南の人才半ば善山にありと言はしめたる程なれ共今や全國の衰退と共に又昔日の觀なし。

馬山浦
마산포

馬山浦は慶尙道の南端に位し東經百二十八度三十四分北緯三十五度十二分釜山を距ること陸路十二里海路四十哩我が對島を距る僅に五十哩に過ぎず。地は巨濟島の北端より西北約十五哩灣入したる處に在りて灣口は南に而し西漆原半島の丘陵と東熊川郡下の諸峯巒とを左右にし灣奥更に盤龍舞鶴の二峯を以て之れを圍繞す。

灣形は斜に南北に長く東西に狭く南北凡五哩東西廣き處にして凡二哩を出

各國居留地

です。海底は東北部に淺くして西南部に深し。灣口の中央に月影島(猪島)と稱する一島あり周圍約五六丁其左右陸地との距離六丁餘にして何れも水尋淺からずと雖特に其東南馬山浦直路は八九尋の水深を有し大船の通過自在なり。此灣は歴史上我が國と關係を有すること深し。高麗王朝の時に在つては合浦と稱し日本との交通上唯一の起點となり元の我に寇したるとき其艦隊は實に此所より發航し又倭寇の勢力を八道の沿海に逞ふしたりし時も亦此灣内を以つて根據地となしたるものゝ如し。而して文祿役に於ける我が軍の城址は今尙舊馬山浦の北數町の所に遺存せり。

馬山浦の開港は明治三十二年五月にして其管轄は昌原郡に屬す。此地は慶尙道の樞要なる郡邑を控へ商業上の好位置を占むるも灣入の深きに失して航路迂回の不便あるは惜む可き欠點なりとす。

各國居留地は馬山灣の西岸月影洞の土地を區劃して設定し其面積大約十萬坪あり其内測量を終り競賣濟となりたる部分は明治三十七年末に於ては約三萬坪に過ぎず。海岸道路橋梁溝渠等は居留地會の經費を以つて稍完全なるも

日本居留地

のを築設し埠頭は韓國政府に於て明治三十六年築造を了りしも船舶の出入貨物の集散等は未だ見るべきに至らず。

日本專管居留地は各國居留地に隣り滋福洞に在り丘陵後面を圍み海灣に瀕し面積十萬坪を占む。領事館あり郵便局あり其他僧侶醫師教師等は勿論各種の職業者の移住する者近三四年日に多きを加へ明治三十七年六月現在戸數六十戸、男百三十一人、女百〇二人に達せり。

露國居留地

露國專管居留地なる栗九味灣の地區は各國居留地の南方に隣りし前に月影島を控へ領事館ホテル煉瓦製造場等三四の建築物あり面積三十萬坪を占む。

此地嘗て露國が不凍港の一として着眼する處となり開港當時には馬山灣、鎮海灣に露艦の出入頻繁にして御用商人類似の露國人在留する者二十名許ありしが爾來形勢一變し今や同國人の在留する者一名もあるなし。

韓人街

韓人街は灣奥の北方各國居留地を距る二十丁に在り邦人舊馬山と稱するもの是なり。戸數千餘、人口約四千五百を有し昔時貢米諸税の集積地として咸鏡道の元山、忠清道の江景と共に八道三大津の一に數へられし所にして慶尙南道

交通

に於て市街として第三位を占む。馬山開港の當初本邦商人は悉く其内に雜居したる歴史もあり且つ本港貿易の大部分を占むる米穀の取引は秋冬出穀の季節中専ら此地に於て行はるゝの有様なるを以つて今尙邦人の此處に居住する者多く、明治三十七年六月現在戸數四十二戸、男八十九人、女五十六人なり。此地の市日は毎月三回五日にして當日は附近十里乃至二十里の隔地より來集するものあり殊に米穀の出盛り季節には韓錢取扱高五萬貫以上に達すと云ふ。此地は又魚介集散の要區にして鹽藏魚を第一とし海參、明太魚等の乾魚をも取扱ひ其問屋の數二十餘戸ありて毎年の取扱高數十萬圓に上り魚類は本邦漁船及び韓國漁船の供給する所に係り販路は慶尙、全羅より忠清方面に渉る。本邦人中此地に於て日語學校を開き韓人の子弟を教育する者あり目下生徒數十名に達し漸次盛大に赴きつゝあり。

交通は大阪商船會社汽船の隔週一回寄港し、釜山曳船會社にて毎月十回本港釜山間を往復す。又陸路馬山より釜山に至るには三條の道路あり。第一昌原を経て三浪津に出づるもの馬山三浪津間八里第二熊川より金海を経て龜浦に

嶺南鐵道

出づるもの馬山龜浦間十二里第三熊川より海岸に沿ふて直に釜山に至るもの(此間十二里)あり。

京釜鐵道の分岐線たる所謂嶺南鐵道は明治三十八年六月を以て開通するに至れり。則ち馬山浦より三浪津に至り本線に連続するものにして此線路は釜山三浪津間よりも約八哩の短距離なるを以て附近の農業地にして從來釜山に輸出したりし貨物は今後馬山浦に輸送するを便とすべく馬山浦の商業は將に一大發展を見るに至るべし。

統營

慶尙道の最南端に突出せる固城半島の海角に在り巨濟島閉山島と近く相對し馬山を距る南十四里に位置す。曾て忠清全羅慶尙三道の水軍統營城を置きたる所なるを以て統營の名あり。城は山に靠り郭壁を繞らし周圍殆んど五韓里許現時鎮衛隊二百餘名駐屯す。城外には家屋櫛比して海岸に連り戸數三千餘、人口一万七千餘を有す。毎月六回の定期開市あり近海諸島及び全羅沿岸の市船竝に輻輳し毎市取引高五六千圓に達す。船舶出入の多きこと慶尙沿岸第

一とす。涼蓆及び膳具は此地の特産なり。附近諸島には從來本邦漁民の出入するもの多きを以つて統營在留本邦小商人等は専ら此漁民を顧客として營業したりしが近時巨濟及び附近諸島に防備隊の設置せられしより本邦商人の來住する者益々増加し明治三十七年末に於ては戸數二十一戸、人口五十九名となり尙増加の形勢を示すに至れり。

統營の前面に横はれる小嶼二あり。方山島及び桔珠島是れなり。大陸凹入の處と相對して一港を形成せり。水底深からずと雖稍々大形の和船を泊するに足る。又統營の西方に當りて僅に一道の潮水を隔て、孤島の横はるものあり此に一橋を架す。此間幅二間に過ぎずと雖滿潮に際せば自由に漁舟を行ふことを得べし。傳へ稱す此地素陸地に接續せしが文祿の役我が將士の開墾せるものなりと。此附近は文祿役に於て彼我水軍の互に角逐せる處にして現に統營城内の倉庫には當時の戦利品として本邦の甲冑武器の保存せらるゝものありといふ。

巨濟島

巨濟島

巨濟島

巨濟島は韓國三大島の一にして南北十二里東西廣き處八里あり。馬山灣口の南統營の東南に横りて東南は我が對島と相對し北は鎮海灣を隔て、半島大陸に面し其間僅々數町を出でざる處あり。東北には加德島あり相抱きて馬山灣航路の海門を造る。周圍は屈曲頗る多く島の中央には鷓籠山峙ち其餘脈延ひて全島に亘延せり。昔時倭寇此島を根據地とし又文祿の役には水軍の争地たりし處なり。

竹林浦

島の西岸に在る竹林浦は島中第一の良港にして優に軍港となすに足る。雞籠山其後を屏障し蜂巖島前に横はりて恰も一大湖水の如く水尋深く暗礁少く一時に十餘隻の軍艦を碇泊せしむるを得べし。巨濟邑は其北奥岸に在り人家稍稠密常に船舶の往來絶へず。島の東面には玉浦あり灣口東北に面し西南に灣入し舊水軍萬戸の治たりし所玉浦の南三里に知世浦あり灣口東南に向ひ曲折して南西に入り水深く暗礁稀に風浪を避くるに適す。此亦舊水軍萬戸の治せし所にして廢衛の址を存す。島の南面プロートン岬の西北内に白助羅あり。島の南端フィンゲル角本邦人トーザングの鼻と呼ぶの東内面には都長浦あり。

都長浦

白助羅

知世浦

玉浦

古多太浦

加德島

臥島

欲知島

島の南面フィンゲル角とコルベット岬との中央奥には古多太浦あり。此等は共に人家四五十戸内外を有し本邦漁船の碇繫場なり。

本島の東に浮べるものを加德島となす。周圍八里餘大船を泊すべき港灣なしと雖其西南岸には漁船を泊すべき港灣數個所あり。島の周圍には屬島頗る多く蜂巖龍草比珍竹島大德小德毎々開山七川の諸島嶼は稍々名あるものにして就中毎々開山の二島は稍大に開山島は季舜臣が我が軍と最後の激戦を試みし處なり。又巨濟島と馬山灣口との間に横はれる一小嶼を臥島といひ邦人之れをアカシマと稱す。本邦漁船の寄泊するもの多く島中に清泉湧出し漁船の飲料に適す。

欲知島

欲知島は統營を距ること約八里の海中にあり本邦人之れを鹿島と稱す。其形稍々楕圓形にして南北に延ぶ。東方岸に一灣あり東港といふ灣内廣く丘陵之れに繞りて風浪を避くるに良く水深九尋内外艦船の碇泊に適し此附近海島中の良港灣なり。島内六部落に分れ二部落は東港内にあり邑浦及び坐釜浦と

す人家約四十戸農漁魚を業とす。此地亦本邦漁民の重要なる根據港にして潜水業者の納屋を構ふるもの尠からず。

南海島

南海島は東蛇梁能良諸島を挟みて固城半島及び巨濟島と相對し北は一水を通じて本土に接し西は全羅の突山島を望み南は大洋に濱す。本島は南北十里東西七里許の面積を有し韓國五大島の一に數へらる。南海邑は島の東面にありて郡衙を置けり。島の南方に二三の小屬嶼あり其中央形瓢に似たるを鳥島となす。鳥島は西より東に延び岸の中央に凹處あり一小島と相抱きて風浪を遮るに足る。此島は漁船東西に往來するの要路に當るを以つて本邦漁船の碇泊するもの常に絶へず。

島

南海島

晋州

晋州(陽晋、昔川)

晋州は馬山の西十三里にあり慶尙南道の首府にして觀察府郡衙警務署郵便司電報司公立小學校等の設けあり營江は府城を環りて東流し洛東江に入り形勝の區たり。交通の要衝に居るを以つて貨物の集散最饒く西方昌南咸陽山陰

智異等の諸邑皆物品の供給を此地に仰ぐ。市日には附近の商估來集し一市の取引高一万五千圓内外に達す。木綿の産地として名あり本部紡績糸の銷售せらるゝもの多く戸數三千八百人口約二萬と稱す。

星州(星山、碧珍)

星州は京城を距る五十三里金鳥山の麓にあり若水河之れを繞り東流して洛東江に注ぐ。城廓の周圍六千尺余人家は城の内外に櫛比して六百余戸と稱す。京城西路に沿ふを以つて旅客の往來常に絶へず商業亦繁盛貨物輻輳す。此地昔の星山伽椰にして加羅國に屬せり。壬辰の役我が小早川隆景黒田長政等兵を率ひて忠清道清州に赴くの途次經過せし處なり。

星州の南に高靈あり。高靈は千有餘年前日本駐屯軍の占據したる處にして一時新羅百濟に對して威を振ひたりしが新羅の驍將異斯夫の爲めに攻滅せられたり。此地の附近開山津は舟楫の便あり洛東江流に於ける著名の寄泊地なり。

星州

高靈

第二章 全羅道 (南道)

概説

全羅道は韓國の東南端に位し慶尙道に次ぎて本邦と相近き位地に在り。東は小白聯脈に依りて慶尙道と區劃し北は蘆嶺山脈の支脈と錦江とを隔て、忠清道に接し西南は海洋に濱せり。本道の沿岸は港灣に富み最も多數の島嶼を有す。

本道は韓國の寶庫たる所謂三南慶尙全羅忠清の一にして氣候溫暖土地肥沃農産物に富めるを以て其名高し。殊に錦江万頃扶安の三流域は沃野渺茫として相連り全州平原江景平原は就中大なるものにして十里四方の稱あり海亦魚鹽の利に富み三南中の三南と稱し半島に於て最も豊沃の地方なり。故に人民は購買力に富み貨物の輸入甚だ多く習俗は浮華にして聲色を喜び驕奢を誇る者多しと稱せらる。又本道は昔百濟の占據せし處にして古來叛賊多く此地より出づと稱せられ李朝の太祖李成桂の如き其遠祖の出生地なるに係らず全羅

全羅道
概説

木浦

出生の士人を顯要の地に擧ぐるを戒めたることありといふ。
我が永正年間大内義弘及び義興の要求に依り本道内の貢米を大内家に輸したることあり。海岸は其延長約二十里にして南韓の凸角を形成し屈曲出入頗る多く島嶼の星羅するもの大小三百有餘多島海の名あり木浦群山浦等の良港灣を有す。

木浦

木浦は明治三十年の開港に係り北緯三十四度四十七分東經百二十六度二十三分に位す。本道の中央を貫流する榮山江の河口に在りて背後に湖南數十里の沃野を控へ前面は多島海を擁し海陸の物産に豊裕なり。地は務安府に屬し古來貢米の集積地にして高麗の末倭寇の掠奪を擅にしたる所なり。灣口は西に向つて開き東進するに従ひ三灣となり。一は海南郡北倉に通じ一は靈巖郡西倉に及び他の一は羅州方面に向つて灣曲す。木浦は即ち三灣合圍の西北岸上に突出せる小山の麓に在り之れを木浦鎮と稱す。港内南北に廣く東西に狭く前に孤下島を横へ沙島達里島の二島更に其前を屏障し恰も括囊の如し。海

居留地

底十八尋乃至二十五尋、波靜に岸際暗礁なく幾多の艦船は岸邊に横付するを得べし。唯潮沙干満の差一丈餘に及び海面遠く干潟を顯はし潮流又甚急にして溯航の船舶は往々困難を感ずるの憾あり。

木浦灣口の孤下島は先年露の大に垂涎せし所にして明治三十年の頃露艦屢々之れを測量し同年九月同國陸軍大佐某軍艦に搭じて木浦に來たり韓國外部より孤下島買收の許可を得たりと稱し官契の交付を木浦監理に迫り之れを脅迫する數次に及びたりと雖監理の斷然たる拒絕に會ひ又如何ともする能はざりき。適々木浦居留の本邦人某三万圓を投じて該島を韓人より買收し官契の交付を木浦監理に請求し終に該島の使用權は本邦人の手に歸するに至れり。當時孤下島事件として世上に喧傳する所のもの即ち是なり。

居留地は港の西方楡達山の東麓に在り。其面積は既測量地六十四万三千八百六十平方米突にして外に若干の未測量地を合し總計約九十万平方米突とす(約三十万坪)市街を領事館通、務安通、東海岸、木浦臺、本町通、南海岸、山手通の七區に別ち帝國領事館、帝國郵便局、帝國警察署、各國居留地會、日本居留民役所、同商業會

韓人街

交通

議所、朝鮮海通漁組合聯合會支部、公立病院、木浦小學校、東本願寺別院、新聞社、日本郵船、大阪商船會社代理店、海產會社、興農協會等あり。居住者は居留地並びに居留地に接近せる韓人街に散在する者を合して明治三十七年六月調査日本人千三百〇一人、外國人三十九名あり。

居留地を去る四丁にして萬福洞、雙橋里、新昌洞等に韓人街あり。往時は漁民農夫の豚小屋然たる茅屋に住するに過ぎざりしが居留地の發達と共に監理署、警務署、海關署、郵便司、電報司、教會堂等の建設を見るに至れり。

當港と各開港場間の交通は日本郵船、大阪商船、大韓共同郵船各會社及び堀回漕店等の汽船の定期寄港するあり米産地たる羅州、南平、潭陽、淳昌、平原其他榮江流域の各地方へは三板船によりて交通し西部海岸即ち靈光より群山の西方に至る海岸並に南部諸郡及び濟州島、珍島其他の諸島嶼との交通は全く蓬船によりて行はる。明治三十六年中汽船帆船の出入數は入港五百一十一隻、二十三萬五百二十七噸、出港五百〇七隻、二十四萬三千二百〇七噸なり。水路交通の至便にして盛に行はるゝに反し陸路交通は商業上見るべきもの甚だ少し。其中主な

る交通線は務安、咸平、靈光、茂長、興德、古阜を経て群山に達するもの、務安街道より分岐して羅州、南平、光州、潭陽、淳昌等に達するもの、羅州より分岐し長城、井邑、泰仁、金溝、全州に達するもの、及び常港の對岸靈巖半島より靈巖を経て羅州に達するもの等とす。

本港は全羅沿海に於ける本邦漁船の碇泊場にして、鯛、鰯船の如きは四時其跡を絶たず、漁船の輻輳最も多き季節は春期、群山浦沖出漁船の往復する際とす。

漁業
群山浦

群山浦は沃溝郡に屬し全羅道の西端全羅、忠清を劃せる錦江河口の南岸に在り江を隔て忠清の長岩鎮と相對す。港内稍々廣くして波浪の虞少く水深は約三尋内外なれ共河口淺く暗礁堆砂等の出沒するあり三四百噸以上の汽船は入港し難し。又潮汐の差は二十尺内外に及び退潮時は殊に潮流急激にして小船の碇泊するものにして往々碇錨を抜き去らるゝことあり。本港の開港は明治三十二年五月にして當時寂莫たる寒村に過ぎざりしが爾來商賈の居住する者漸く多く外船の出入漸く繁く般販なる一商業港たるに至れり。

地勢は北の方北亭丘に據りて江に臨み西南に望月山を負ひ東南は岡陵を隔て、所謂全州の曠野に連る。北亭丘上に群山鎮廢衙の遺棟あり鎮後の米廩は舊時此に轉運便を置き金溝、泰仁、任實、長水、鎮安、沃溝諸郡の貢米及び全州の炮糧米を積聚して海路京城に運輸したる所にして一名此地を群倉と呼ぶは則ち此倉廩在りしが爲めなり。

各國居留地

各國居留地の總面積は五十七萬二千平方米ありて其内競賣によりて官民の所有に歸せし面積は十五萬七千五百四十一平方米突とす。日本官民の所有面積は此内十二萬八千九百七十八平方米突にして他二萬八千五百六十三平方米突は清國人民の所有に係る。居留地は素と稻田、蘆田等卑濕地の埋立より成るもの多く既成地は道幅八米突、十米突、十二米突等場所により同一ならざるも區劃頗る整然たり。道路の新設修理、溝渠の開鑿浚深等は各國居留地會の經營に成り各個人亦埋築工事及び家屋倉庫の新築を爲すもの年と共に進捗し市街の體裁近時頗る舊觀を改めたり。我が領事館は北亭丘上に構へられ丘下は則ち居留民人の街衢たり。此地に於ける公私上の施設としては各國居留地會あ

交通

りて各國領事、韓國地方官及び地主代表者によりて組織せられ居留地の主腦たり。日本民會は領事監督の下にある本邦人特別の行政機關にして恰も本邦の市町村役場の如く又商業會議所の事務を兼ね。群山尋常高等小學校は日本民會の監督に屬し其經費は總て民會より支出し生徒は無月謝にて就學し明治三十七年九月末就學兒童九十五名を有せり。本邦警察署及び郵便局は何れも領事館内にあり。又病院、避病院あり大谷派本願寺出張所あり、農事組合は日本民會内に設けられ群山俱樂部は有志共立に係り商業機關としては銀行あり、回漕店、貿易商、通關取扱業等は勿論百般の供給備はらざるなく開港後日淺しと雖其設備の整へること他港に譲らず。本邦人の居住數は明治三十七年九月調査三百二十八戸、一千七百十一人にして清國人は十六戸、五十五人なり。

交通は當港本邦間の直通船として大坂商船會社の汽船あり。沿岸航運船は仁川堀久商會の小蒸汽船及び大坂商船の汽船あり二三日毎に仁川を起點として當港木浦間を往復し別に大韓汽船會社の汽船も時として出入す。明治三十六年中出入船舶は入港三百四十六隻、五萬一千三百十六噸、出港四百七十五隻、七

黄山

萬九千八百九十九噸なり。又錦江の水運は其上流黄山迄は約四百石積、黄山に隣れる江景迄は二百五十石積、更に其上流論山迄は百五十石積の帆船を通ずるを得べし。陸路の交通は全州街道に依りて同方面の各地に通じ全州へは約十一里、江景へは陸路約十里、水路約二十五里とす。

全州

黄山は礪山郡に屬し錦江の畔に在り小丘に沿ひ戸數三百内外の一部落なり。忠清道の江景と僅に一支流を隔つるのみなるを以つて其行政區劃を異にすと雖關係頗る密着にして恰も我が兵庫の神戸に於けるが如く唇齒輔車も管ならざるものあり、此地の子弟にして江景の韓南學堂に通學するもの尠からず。日本人の在住するもの五戸、十七人。

全州(甌城、完山)

全州は全羅北道の首府にして京城を距ること四十四里、東に威鳳山城を負ひ西北に麟巖、乾止山を望み而して有名なる全州平原を擁し頗る景勝の地たり。府城周圍四里、曾て東學黨の攻陥に會ひ全城擧げて掠抄に委し一時大に衰廢し

たりと雖漸次回復して現今戸數約三千五百に及べり。市街は城の内外に亘り
 觀察府あり郡衙あり兵營あり韓國郵便電信局あり觀察府附屬の警察あり米佛
 兩國人の教會堂あり百貨幅輳商賈營を列べて常に店舖を開設し其繁盛の度忠
 清道公州府より優れるを見る。此地柳進士宋進士金進士等の富豪あり其資産
 我が五六十萬を有すといふ。又白南信、金主事等の勢力家あり金主事は數年前
 に病没したれ共其徒中有勢なる者ありて觀察使と雖時として如何とも爲し難
 き事ありといふ。日本人在住者明治三十七年に於て九戸二十五人清國人在住
 者六戸十五人。又日語學校あり三南學堂と稱し我が邦人の設立に係り生徒二
 三十人を有す。府城を距る西四里にして萬頃江岸に大庭村あり全州の貨物仲
 繼所にして水路に依るものは一旦該村に運搬し更に他地方に輸送せらる。

南原(帶方龍城)

南原は馬耳山下にある一都邑にして京城より順天に達する所謂京順街道に
 沿ひ人馬の交通頻繁にして商業亦盛なり。南求禮に通じ此間平野にして田地
 多く米穀の産地とす。府の附近鳳洞、泉石、華岩、蒸谷、星園等の奇勝あり共に著名

南原

の地とす。府城は周圍八千九百九十九尺、外に蛟龍山城あり慶長の役明將楊元壁
 韓將李福男等此に據る我が諸將大兵を率ひて三面より包圍攻撃し吶喊城中に
 入り城兵悉く死し楊元僅に身を以て脱したりといふ。

光州

光州は羅州の東にあり榮山江に接し附近悉く曠漠たる平野にして富裕の村
 落多く農産饒沃、人口約六千餘と稱し店舖連接、家屋稠密、百貨幅輳、其繁盛羅州と
 匹敵す。此地觀察府あり南道を管轄す又古より名節の士を出すといふ。

羅州(發羅、錦城)

羅州は京城を距る六十七里北に錦城山聳ち東南方は榮山江に沿ひ地局恰も
 京城に似たるものあり。江を渡れば渺茫たる大野にして所謂羅州の野は即ち
 是なり。村邑相連り地味豊沃にして農産物極めて饒富以つて南韓の富源を爲
 せり。人口三千餘、民多く富庶にして全羅中第三の都會と稱し商業地として光
 州と並び稱せらると雖其繁盛却つて光州の上にあり。羅州の南に靈巖あり。
 人家稠密、亦一商業區にして生民概ね富裕農耕に務む。靈巖の南に鳩林里あり

光州

羅州

靈巖

鳩林里

新羅時代著名の地にして當時支那地方に航するものは悉く此處より發航したりといふ。

新城浦

新城浦は順天郡に屬し通稱 エートル といふ。光陽郡の一角と麗水郡の一角の海中に突出して一深入灣を造る處其西奥に位す。南の方一丘陵に古城址あり人家六十餘戸、近く順天郡の諸邑を控へ又全羅南道の各邑に通じ交通の要衝に居るを以つて船舶輻輳し又本邦漁船の捕魚販賣場たり。新城浦の前に横はれる一小島は周圍一里八戸三十餘戸之れを 松島 と稱し又 ソリセミ ともいふ。其東方に浮べるを 猫島 といふ周圍三里人家四十餘戸本邦漁民の寄泊地なり。

順天邑

新城浦を西北に距る三里に 順天邑 あり。高麗辛隅元年(我が後龜山天皇天授元年)藤原經光其徒を率ひて高麗に投歸したる時此處を以つて經光の封土に充てたり。又慶長三年太閤の薨去により師を班さんとし小西行長軍を此地に屯するや明軍及び朝鮮水軍其歸路を遮る島津義弘諸將と共に來り援ひ明韓の水師と衝突し兩軍激戦彼我共に損傷多く明將及び舜臣の戦死に依り行長漸く師

光陽邑

を返すを得たり。邑内人家約四千、邑市は毎月二、七の日に開き市人の來集する者多し。

新城浦の北方約二里の海岸に 光陽邑 あり毎月一、六の日開市し人家稠密、商船輻輳す。

麗水邑

麗水邑
順天より突出したる岬角の南東にあり通稱左水營といひ舊時海南郡の右水營と共に全羅海上の重鎮たる左水營の所在地にして城址尙存し城圍十餘町現時之を郡衙に充つ。人家五百六十餘戸と稱し毎月四、九の日を以つて開市す。本邦漁船の寄港するもの多く獲物の販賣場たり。

突山島

突山島
麗水郡の前に横はる一大島にして舊防踏鎮のありし所なり。北及び西面は芻莫洋を隔て、本土と對し東は南海島に面し南は金鰲島其他二三の島嶼を擁して一港灣を造る。港内水深く艦船を碇泊するを得之れを防踏鎮地といふ。突山邑は島の西南方にあり郡衙を之れに置き附近の諸島嶼を管轄す。島の東

堀前浦

面に一小灣あり堀前浦といふクラッペイと通稱し人家約三十戸其濱岸に散在す。又島の西方には京島周圍二里半人家三十あり南方には禾太島周圍二里人家一百戸羅倭島周圍十町多里島周圍一里人家四十戸等あり。

金鰲島

突山島と雁島との間に介在し周圍約十里全島樹木繁茂し自ら他島と觀を異にす。始め無人島なりしが明治二年頃より移住し現時人家三百餘戸あり。本島の東西兩面に心浦牛室浦の二灣あり二三百石の和船を繋ぐに足り南面には本邦漁民の碇泊根據地あり。

金鰲島

雁島

本島の東に列るを雁島といふ西面に釜島を望み南齋島に接し周圍約三里人家百三十戸を有す。

巨文島(三島)

巨文島

樂安郡の沿岸を距る約三十里の南北緯三十四度一分乃至五分東經百二十七度十六分乃至二十八分の間にある。本島は三個の島嶼より成り西にあるを西島といひ周圍約三里東面に長村(約百六十戸)徳村(百戸)の二村落あり。東にある

濟州島

を東島と稱し周圍約二里西面に柚村(百戸)竹村(九十戸)の二村落あり。兩島相擁し北より南に延びて一峽を爲せる其南端更に一小島あり之れを倭島となす。此三島相抱きて海灣を爲せるもの則ち巨文島にして英人之れをポートハミルトンと稱す。鎮海灣長直路等に比すれば狹隘なれ共猶港内優に十艘内外の艦船を泊するを得べし。倭島は往年一時英國艦隊の占領する所となり世人の耳目を聳動せし所當時英人が築きし一小波止場は現下我が漁船の碇繫に便するものなり。島上英人の墓標あり又斷垣殘壁の存するあり當年の設計を追想せしむ。今尙英艦の來泊するもの毎年數次に及び各國軍艦亦往々碇泊することあり。全島四村の人口約二千人多くは商旅を以つて生計を營み日本語を解するもの多し。此附近潮流急にして大潮時は約四里以上を駛せ潮汐の差十一尺内外を示す。

濟州島(耽羅、毛羅、東瀛州)

北緯三十三度十二分乃至三十一分東經百二十六度八分乃至五十七分の間位置し東西約三十里南北約九里有名なる漢孛山(一名漢羅山)は島の中央に聳立し

高さ六千五百五十八尺、巍然雲外に朝す。死火山にして頂上に舊噴火口あり一大池を爲せり。

本島は中央なる漢拏山の山勢四方に擴延して緩慢なる傾斜地を造り恰も我が富士山麓に似たるものあり。南面には樹木繁茂し、松、樟、椎、檜等温地帯の植物大部を占む。島の周囲は斷崖絶壁にして碇泊地に乏しく且つ時々漢拏山風の爲め船舶の困難すること多し。

全島を三郡に分ち濟州、旌義、大靜となし牧使を置きて之れを統轄す。人口は二十萬と稱すれ其實際は之れに超ゆといふ。風俗言語稍本土に異り土人は殺傷を好み珍事を惹起すること多く氣候は本土に比すれば頗る温暖にして柑橘の數を産し古來牧畜業盛に行はる。韓國汽船の往々寄航するものあれ共良碇泊場なきを以て回航の便少し。

本島の東端城山浦あり以つて漁船を碇泊せしむべく人家六十余あり。南面には西歸浦あり人家約九十八人口約二百余と稱す。濟州邑は本島の主邑にして人家稠密商家連擔繁盛の一區たり。本島の附近に牛島、甲沈島、飛揚島等列坐す。

城山浦

所安島

嶽子島

嶽島

長直路灣

所安島 全羅道の南端唐津の岬角より約八里の海中にあり其西面に集附せる柑吉島、嶽島、嶽子島其他の諸島を集めて一大港を造り此等の群島を所安群島と稱す。所安島の西南約十里、嶽子島あり。草蘭、愁德、横看諸島相集りて嶽子群島を成す。此地は罪人の流配所に充てらるゝ處にして島人の半は流刑者なり。

嶽島 康津郡の前に横り長さ約六里幅二里半許あり。小白聯脈の餘派此島に隆起し高さ二千余呎其餘派全島に亘りて蜿蜒起伏し殆んど平地を見ず。諸山樹木多く鬱蒼として全島を蓋ふの狀八道の沿海に多く見ざる所なり。郡衙は本島東面の一邑にあり附近大小の島嶼を管轄す。

本島及び新智島、古今島、助藥島の四島相集りて一港灣を造る之れを長直路灣となす。東經百二十六度四十四分乃至五十三分、北緯三十四度十二分乃至四十分の間に位し。港内東西約十哩南北約二哩水深七八尋より十七八尋に至り大艦の碇繫に適す。此港灣は軍事上樞要の地位を占め文祿の役李舜臣が水軍を

率ひて大に我が軍と戦ひたるも此港灣附近にして又征清役本邦海軍の一時根據地に使用したることあり。新智島には現に我軍の手に成りし石垣、波止場、鑿井等を存せり。

珍島

珍島 (因修島、沃州)

東西九里南北七里余韓國五大島の一なり。道の南角を曲り華聖頓灣を過ぎて木浦に至る處右水營の前面に横はる。島の東岸海南縣三州院と相對して一髮の峽水を通するもの之れを島洋峽となす。峽中巖礁出沒、潮流奔騰、波浪常に鳴號し航海者をして悚然たらしむ。

右水營

右水營

地は海南部に屬し鳴洋峽の東岸にあり。昔時右水營城を設け左水營と相待て全羅海上の重鎮たりし處、城は石壁を繞らし周圍三千八百余尺、文祿の役李舜臣は此に據り屢我軍を苦しめたり。現に我軍の戰艦に使用したりといへる大錨を遺存せり。此附近赤白墨色の蠟石を産し水營城下其工作品を販賣す。

古群山島

古群山島

海圖に隔音島と記するもの是なり。幾多の島嶼相抱擁して一港灣を爲し艦船を碇泊すべし。此港は清國漁船の重要根據地とする所にして毎季數十艘の集泊するを見る。

第三章 忠清道 (南道)

忠清道 (南道)

概説

忠清道は所謂三南の一にして南は全羅道に境し東は蘆嶺山脈を以て慶尙道に連り北は江原道京畿道に接し西方は海に面す。車嶺山脈は道の中央を西南より東北に延縁して分明に本道を南北に區劃す。産物の多きは二南に及はずと雖儒城、清州の沃野は農産物に饒にして半島中亦豊沃の地たり。昔は新羅の故地にして京城の士族土地を本道に有する者多く土着士族の數却つて平民に勝り其風俗言語概ね京城と異なるなし。海岸は其延長僅に三十餘里に過ぎずと雖屈曲多く島嶼に富み船舶の繫泊すべき港灣尠からず。然れ共沿岸及び海島の間には往々堆砂あり航海者の注意を要し且つ潮流は頗る急速なり。

忠清道 概説

公州

公州 (懷德、公山)

公州は忠清南道觀察府の所在地にして京城を距る南方三十里、群山へ水路十七里、江景へ八里、京釜鐵道、美江停車場へ六里、車嶺の南、錦江の沿岸に在り。周文王の遷て都したる熊津城は則ち此地にして唐の熊津都督府の在りし所なり。戸数は約一千五百、郡衙、兵營、韓國郵便電報局、觀察府附屬の警察及び我が巡查駐在所等あり、又米佛兩國人の教會堂あり。錦江の流系は舟楫の便を與へ百貨輻輳し、商賈軒を列べて常に店舗を開き商業頗る盛大なり。

此地政府の命令に依り春秋二期に藥令大市なるものを開き、藥種の外他の百貨をも兼ね約四十日間繼續して開市し、全國の商人四方より集り其盛況實に驚くべきものありしが五六年前より忠清北道忠州、慶尙南道普州に於ても政府命令の大市を開催することとなりしより此地の市場は漸く振はず、明治三十七年には遂に開市に至らずして自然廢市の状態となれり。府内重なる韓商は李基然、朴公禹等にして是等は我が一萬圓以上の流動資本を有すといふ。我が邦人の住するもの明治三十七年に於て五戸、十四人、清國人は十三戸、三十八人なり。

韓山

此地の清國人は皆一寒商として來りしも今や各日貨一萬圓以上の資産を爲せりといふ。日語學校二あり一を湖西學堂といふ、校舍の敷地約一千坪、室數約六十、明治二十九年の設立にして本邦人某の手によりて持續せらる。科程は日語の外我が尋常小學校程度の學術を授くるものと韓國舊來の韓文學を授くるものととの二に分かる。一は明化學校といひ公州府人の經營に係り地方有志の贊助によりて維持せらる、學科教授の體裁は粗ぼ湖西學堂の如くなるも少しく遜色あり。

公州の産業的區域は實に廣濶にして府下十郡に亘り錦江の流域より西の方海に達し之れを内海の地と稱し韓國中著名の農産地たり。然れ共其商業状態は全羅の全州に比して稍劣るが如し。

韓山 (馬山、鵝州)

韓山は地全羅道の境界に接し江景より錦江に沿ふて下る數里錦江を隔て、全羅道の西浦と相對す。地味厚肥にして五穀饒産し群山に近く水運の利便に富み常に船舶の碇繫を見る。然れ共此地方潮汐干満の差甚しく滿潮の際は煙

波渺漫たるも退潮時には江中沙底を顯す處あり大船の繫泊に便ならず。韓山は麻苧の産地を以つて名あり。

江景

江景は恩津郡に屬し京城より三十七里郡衙を去る西三里錦江沿岸に於ける最良の浦口にして且つ京城大路の衝に當り船舶の出入人馬の往來常に絶へず實に江景平原の首腦たり。戸數約一千戸韓國郵便電信局あり我が郵便受取所巡査駐在所あり市街狹隘なりと雖商舖櫛比して常に店舖を開き商業頗る盛にして近年外國貿易の如き一個年約百萬圓に達せり。而して其貿易の十分の三は我が邦人の經營に成り清國人十分の一他は該地商人の經營に係るといふ。日本人の此地に在住する者明治三十七年に七十七戸二百三十三人日本人會の組織あり。又此地の日本人にして農業經營の目的を以つて扶餘石城恩津林川連山連山及び全羅北道の全州臨坡礪山龍安の各郡に於て明治三十七年末既に數萬圓の土地を買収したるものあり。日語學校として韓南學堂あり明治三十一年の創業にして邦人の經營に係る。

江景

江景は錦江を廻る船舶の終航點なるを以つて全忠二道の商業に従ふもの此地を以つて根據地と爲し日本人清國人の内地貿易を營むもの亦必ず此地を根據となさざるなし。將來群山の發達に伴ひ商業地として益重要なる地歩を占むるに至るべし。唯土地極めて卑濕にして時々水災を被るを免れざるは此地の缺點なりとす。

可興

可興は忠州府に屬し忠州を北に距る約二里餘蓄薇山に據り漢江に臨み民家百餘戸山腹より江邊に連れり。此地政府の倉庫ありて慶尙忠清兩道一部の田租を納れ京城に運輸せしめたるを以つて商民利潤を受け資財を積む者あり。漢江上流に於ける一要津にして慶尙道咸昌以北の貨物を京畿地方に輸送するには鳥嶺を越へ此地に輸出し漢江の水運に利するものあり。文祿の役には糧餉部を此に置き慶尙道洛東驛と通して運輸の便に供したり。日清戰役當時にも電信隊本部を此地に置き又慶尙路の兵を此地より韓船に托して京城に輸送したり。

可興

清州

清州 (上黨全節)

清州は一名を青州とも稱す忠清北道に於ける唯一の大市場なり。京城を距る東南三十里、巨大嶺麓にあり北錦江の支流なる鵲川の流に臨み西は一帶の山脉透進として南に走る。鵲川の東南は平野開濶し廣袤四里に亘り村落平岡相交錯し地味厚沃にして鵲水此に灌漑し農産頗る饒豊所謂清州の野は即ち之れなり。然れ共地低く水高くして時々横溢の被害を免れず。此地鎮川を経て京畿道の竹山に出づる京釜街道西路に沿ひ旅客の徂徠相踵ぎ商業亦盛なり戸數七百戸と稱す。古來陰曆二月と十月の二季に於て忠清南道の公州慶尙北道の大邱と共に大市開くの慣例ありて當日四方より來集する商估頗る多し。

忠州 (大原昌化)

京城を距ること東南二十八里清州を距ること東北十五里に位し觀察使の駐在地たり。此地を距る南方一里に北倉と稱する碇繫場ありて京城より物貨の輸入あり。忠州は是等貨物の分配場たるを以つて商業の取引頗る繁盛なり。笠場

笠場

笠場は稷山郡に屬し安城を距ること三里に在り。戸數は僅に八十内外に過ぎざれ共此附近に於て採取する地金は此の市場に於て賣買せらるゝを以つて市况頗る活氣を呈す。

洪州

洪州は京城より二十七里、土地平廣にして農耕に適し附近米豆の産出甚だ多し人家七百人口三千五百有餘と稱す。商舖軒を列ね近傍聚落に對する貨物の集散地にして頗ぶる繁盛の商業地なり。此の地より貨物を京仁地方に輸送するには東北禮山又は新昌に出てそれより舟船に托すれば頗ぶる捷徑なりといふ。

竹島

竹島は舒川郡に屬し群山浦を距る十二裡にあり。周圍僅に十餘町、全島殆んど平地なく東岸數戸の人家を見るのみ。其開和島と相對する處一灣曲を造り船舶を碇繫せしむべし。本島及び烟島の西南より隔音島を抱擁する一區劃をバジル灣と稱す。春季鯛、鱒、帶魚等を饒産するを以つて本邦、清、韓三國漁船の出

烟島
開和島

漁するもの毎年無慮千餘隻に及び本邦船は其半數を占む。竹島の西約六里の沖合に烟島あり周圍約一里餘島中丘陵多く東北而稍平地を餘し東岸に港灣あり船舶を泊するに足る。竹島の東にあるを開和島(開巴島)とす南北に延び東西に狭く周圍約一里餘田畝稍開けて點々人烟を見る是等の島は皆本邦漁船の根據地なり。

牙山灣

牙山灣

忠清京畿兩道の境界にある大灣にして灣内分岐して二となり南にあるを貢税湖とし北にあるを古温浦とす。灣入深く水尋淺からず亦西海好適の一錨地なり。貢税湖の南に一河あり素沙河といひ平澤に通ず。亦一河あり上流新昌に舟楫を通ずと雖河底淺きを以て滿潮にあらざれば之れを行る能はず。禮山以北伽倻山以東は此河によりて輸送の便を籍るもの多し。

牙山郡

牙山郡は貢税湖の北岸にありて人戸三百餘と稱し人民稍富む者あり。昔時貢税倉庫を此地に置き忠清道の貢米を集めて京城に輸送したるの地なり。又此地は明治二十七年日清戦争の初め清兵の據る所となり後我が軍の占領に歸

したるの地而して兩軍海戦の端緒を開きたる有名なる豊島も亦古温浦の西十餘里にあり。

第四章 京畿道

概説

京畿道は半島の中央に位し東は江原道に接し南は忠清道に隣り北は黄海道に連り西は海に臨む。田野に富まず物産に豊ならずと雖王都の所在地なるを以て政治上の焦點となり文明の中心となり半島勢力の本源となるを以て随つて四隣の物産多く此地に集合し又分配せらる。而して漢江臨津江等の河流は本道の要部を從貫し又京釜京仁京義等の鐵道あり交通運輸の便亦八道中の冠たり。海岸の延長は略忠清道に均しく屈曲に富み島嶼多く頗る良好の港灣を有するも其沿岸附近堆砂多く潮流急速なり。

京城(漢城、漢陽)

京城は殆んど半島の中央なる北緯三十七度三十分、東經百二十七度四分に位

京城

京畿道
概説

置す。韓國の主府にして李朝歷代此に奠都し中央政府及び宮殿の所在地なり。抑も半島の都を此地に奠めたるは李朝に始りしにあらず。今を距る凡そ八百年前則ち高麗の肅宗元年(西曆一千九十九年)都を此地に奠め南京と名け尋て李太祖康獻王の高麗王を滅して王位に即くや、始め鷄龍山に都せんと欲したるも參列柳觀なる者の説を納れ松都(開城府)より遷て此に奠都し以て今日に至りしなり。

漢陽の地たる北には北漢山、漢山、白岳、北岳、三角山等の稱あり、聳ち南に木覓山(俗に南山と呼ぶ)を負ひ、兩山の餘脈府都の四周を圍みて東に略駝、天藏、諸峯簇立し西には仁王、白蓮、蓮華の各峯相峙ちて自然の鐵壁を造り漢江其南を流れて水運の利會となり山河の形勢自ら半島要樞の地たり。市街は此間に亘延し東西三十町南北二十町周圍約五里、其地域畧我が名古屋市と相似たり。市街の四圍は繞らずに堅固なる高壁を以てし壁高さ平均十尺、之れに南崇禮門、西南昭義門、西敦義門、西北彰義門、北肅靖門、東北惠化東、東興化門、東南光熙門の八門を開く其内最も大なるは崇禮(南大門)興仁(東大門)の二門にして共に高さ三十尺厚さ二十

市街

尺の石壁を以て築造し上に二重の門樓を構へ外觀壯麗を極む。王闕は市の北西部即ち北漢山の下邊に繞らずに高さ三十尺の石壁を以てす景福宮即ち是なり。光化門(南)振武門(北)建春門(東)迎春門(西)等四個所に宮門を設く。光化門は其正門にして門前大街の左右には官衙公署宗廟廟堂及び貴族の邸宅等相並び何れも大厦高塔を述べたり。南方に新宮闕慶運宮あり明治三十年新に經營せられたりしが同三十七年七月火を失し其過半は烏有に歸したり。慶運宮の東に昌德宮、昌慶宮あり之れを大闕東闕と稱す。今王二十四年の亂に我が兵を守護し清韓兵の襲撃を受けたる所なり。英佛露獨、米の各國公使館は何れも迎春門内に構へられ本邦公使館は獨り木覓山の下に在り。我が公使館前倭城臺と稱する小丘あり傳へいふ文祿の役我が守將築く所の砦壘なるを以て此名ありと。丘上に登りて下瞰すれば全城の光景悉く一眸の裡に集まる。

城内は東、西、南、北、中の五署に區劃せられ東署(區)には七防(通り)四十三契町(西)署たは九防九十一契、南署は十一防七十一契、北署は十二防四十四契、中署は八防九十一契あり。區劃整然として道路稍清潔なれども城外は街路不規則且つ不潔

にして毫も修理を加ふることなし。城内には二條の大路の通ずるあり。一は東大門より起り鐘樓街を経て敦義門即ち西門に通ず。一は鐘樓街に起りて南大門に通ず。此二大路の兩側は則ち各種商店の在る所にして其家屋の如きも韓國普通の矮屋と構造を異にし悉く二階建にして街路は人車の往來織るが如く市中商業の殷盛區たり。彼の六矣座は則ち鐘樓街にあり。又東南兩大門内には毎朝市を開きて都鄙の物産及び日用雜貨を販賣す。殊に南大門の市場は最も盛大にして本邦人及び支那人等の此所に露店を張り商品の販賣に従事する者尠からず。

京城全市の人口は韓國官憲の調査に係るものを擧ぐれば左の如し。

戸數 人口 男 女

明治三十五年末	四二、九三六	一九六、六四六	一〇三、五四〇	九二、一〇六
明治三十六年末	四二、八二一	一九四、一〇〇	一〇二、一三三	九一、九六七
明治三十七年六月	四二、六三〇	一九二、一七六	一〇〇、九五九	九〇、七九七

此統計に依れば京城の人口は年々減退しつゝあるを見るべし。市民の大半

人口

は商業を營み之れに次くは官吏労働者にして労働者中注目すべきは近來人力車業者の増加したることなり。而して外國人の居住するもの明治三十七年六月に於て左の如し。

戸數 人口 男 女

日本人	九九四	四、二二九	二、三六一	一、八六八
清國人	不明			
英國人		四七	三一	一六
米國人		七九	三九	四〇
白耳義人		八	四	四
獨逸人		一八	一〇	八
佛國人		六九	四三	二六

外國人の職業

本邦人の京城に在留するものは官吏、教育家、銀行會社社員、新聞社員、宗教家、醫師等の外主に商業に従事する者にして其中山口縣、長崎縣人過半数を占む。邦人

外國人居留地

に次ぎて多きは清國人なれ共清國領事館に於ては戸口調査を爲さざるを以て其人口を知る能はず。然れ共大半は商業に従事する者にして其他は勞働者職工農夫等とし殊に農事は彼等の得意とする所にして京城に於て一般に珍重せらるゝ白菜は彼等の栽培に係るものなり。歐米在留人は二三の雜貨店及び旅店を營むの外公使館領事館員若くは宣教師なり。

斯の如く外國人の居住者尠からずと雖由來京城は雜居地にして專管居留地なるものあることなし。然れ共自ら各自團集の狀を成し歐米の公使館領事館は多く市の西南貞庭にあり。我が公使館は木覓山下に在り其近傍なる筆洞及び芋洞には我が守備隊並に日本の諸官衙あり。我が居留民の多く集合せるは南大門通長洞明洞羅洞泥峴鏡洞安洞鏡路の八區なれ共一般に日本居留地と稱するは泥峴附近一帯を指し京城に於ける商業繁盛の一區たり。泥峴の通路は殊に惡道なりしを以て日本居留民は約一萬圓の資を投じて明治三十四年八月より起工し同十一月に改修を了り市街の面目爲めに一新するに至れり。本邦人公設の造營物としては日本居留民役所日本人商業會議所京城尋常高等小學

金融機關

校唐子紀念京城幼稚園避病院公園等あり。公園は特に本邦居留民の遊歩場として韓國政府より借受けたるものにして松樹鬱蒼たる南山の中腹倭城臺一帯の地を占め滿都の光景を眺望すべく園中太神宮天滿宮及び甲午紀念碑等あり。私設の造營に係るものは京城學堂あり明治二十九年四月大日本海外教育會の設立する所にして韓國の子弟に普通學を授け兼ねて日本語に通ぜしむるを目的とす。寺院には東本願寺別院あり韓人の信徒九百名を有し又東京淨土宗務所出張所には韓人の信徒千二百七十人を有し外に日蓮宗會堂あり。京城の井水は不良にして飲料に適せざるに苦みしが長崎縣人某南山に於て水源を探求し居留地會の特許を得て水道を敷設し若干の料金を徴して居留地内各所に給水せり。古來南山の溪水は韓人の稱して藥水となせしものにして水質純良飲料に適し在留民一般に至便となせり。又商品陳列場は長洞にありて韓人向の雜貨を販賣せり。其他病院新聞社等亦邦人の經營に係るものあり。

京城に於ける金融機關としては本邦第一銀行支店及び第五十八銀行支店の外に韓人の經營に係る漢城銀行天一銀行朝鮮銀行帝國銀行あり。我銀行は商

交通及び通信

業銀行としての一切の業務を取扱へども韓人の銀行は孰れも單に貸付と預金を取扱ふのみにして普通の金貸業に異なることなし。又本邦人の韓人相手に典當業(質屋)を營業するもの頗る多し。

交通及び通信機關としては本邦の郵便局、電信局、電話局あり。韓國の郵便司電報司電話所あり。殊に電話は永登浦、麻浦、水原、桃洞、契、開城及び仁川方面に架設せられ日常の便多し。

京城電氣鐵道は城内鐘樓街を中心とし南大門を経て龍山に到る一線、東大門を経て清涼里に到る一線、及び西大門を経て京釜鐵道京城停車場に至る一線あり。悉く單線にして其總延長約十哩とす。始め米人コーンブラン、エンド、ボストウキックの合名會社が韓廷の依頼により請負工事として布設せるものなれども其後種々の事情によりて米韓電氣鐵道會社と稱し韓人を社長に戴けども實權は擧げて米人の手にありといふ。

鐵道には京仁鐵道、京釜鐵道、京義鐵道あり。京仁、京釜は既に己に全通して毎日數回發車す。京義鐵道は龍山を起點として今や工事中に係り日ならずして

名勝

龍山

竣成せんとす。

道路は京城大路と稱するもの京城を中心として四方に通じ其幅員六尺乃至十尺餘にして人馬を通ずるに足る。而して古來韓人の乗物は男女共に轎輿を用ゆるの外なかりしが近年我が人力車の輸入ありてより之れを乗用するもの漸く多く今や辻待車を見るに至れり。然れ共其乘客は重に本邦人又は諸外國人並に中流以下の韓人にして韓國の婦人及び上流の男子は今尙轎輿に習するの風を改めず。

漢江の水路は以て舟楫の便を興へ龍山より汽船の便あり唯冬季三個月間は結氷の爲め使用すべからず。

京城内外に於ける名勝舊跡の觀光の資たるべきもの頗る多きも其重なるものを擧ぐれば倭將臺、蠟石塔、老人亭、南前宮、關羽廟、情涼里、石坡亭、孔德里、獨立門等の舊蹟別墅は殊に觀望に價すべし。

龍山

龍山は京城を距る西方約一里に在りて漢江の東北岸に位し所謂韓國居留地

條約の居留地を距る十韓里内の地なり。始め日韓條約には楊花鎮を以て開市場と定め其後英韓條約に龍山を以て楊花鎮に代へたるより開市は龍山に移れり。此地樹木蒼々として風景に富み夏涼殊に愛すべし。往古より入道の貢米を輸集するの要津にして政府此に大なる倉粟を置き常に糧餉を蓄ふるの所となす。文祿の役我が軍此地に諸道の米穀を集積し以て持久の計に供へ、近く日情の役に當りても兵站部を此地に置きたり。

此地は京城より河海の水運に通ずる要津にして京仁間の聯絡をなせる汽船の上下するもの頗る多し。而して京仁、京釜兩鐵道の沿線に當り且つ京義鐵道の起點たるを以て將來多望の要地なりとす。明治三十七年六月に於て本邦人の居位するもの七十戸男二百十七人女八十人合計二百九十七人なり。其一半は韓國政府雇員にして一半は商人及び労働者とす。

仁川

仁川は北緯三十七度二十八分、東經百二十六度三十七分に位し江華灣内漢江河口の東北岸にあり。地は仁川府に屬し其港灣の所在地を濟物浦といふ。前

日本專管居留地

面に月尾島、小月尾島、中島等の諸小嶼相擁して更に小港灣をなせり之れを内港といひ其外面を外港といふ。内港は狭小にして二千噸以上の船舶を入るゝを得ず。殊に此地方潮汐の差甚しきを以つて干潮の際には沿岸の岩骨悉く露出し月尾島の對岸に於て僅に碇繫をなし得るに過ぎず。外港は海尋深くして大船巨舶の投錨するもの絶えず。明治三十七年二月八日日露戰役の劈頭我が海軍が露國の軍艦二隻を撃沈したるは此外港なり。

本港の開放せられしは明治十六年なれ共我が邦人の此地に貿易を始めしは明治九年頃よりの事にして當時は實に微々たる一小漁村に過ぎざりき。然れ共此地は京城を去る十里、其咽喉の要地たるを以て開港場たるに至りし以來非常なる發達を爲し各外國人の居住する者貨物の輸入せらるゝもの甚だ多く商業の繁盛正に釜山を凌駕せんとするに至れり。

日本專管居留地は露清兩國專管居留地の間に介在し其地域最も廣く東西二百六十余米突、南北百八十餘米突、面積九千坪を有し居留地の最要部を占め之れを本町、裏町、山手通、海岸通の四條に區劃し更に海岸を埋築して市街を造りしも

區域尙狹隘を感じ他國の居留地區域内にも居住する者夥しく概ね本邦人の家を以て充滿するに至れり。我が諸官署及び公共機關には帝國領事館、警察署、郵便局、日本人居留民役所、居留民會議所、商業會議所、小學校、病院、銀行、汽船會社、寺院、神社、公園、劇場、幼稚園、教育衛生會、慈善會、日本消防組、看護婦會、新聞社、仁川米豆取引所等ありて百般の機關略備り各種の供給殆んど不便なきが如し。本邦人在留者最近の調査に係るもの戸數千三百三十一戸、男三千四百十三人、女二千五百六十人とす。

清國居留地は日本居留地の東北端より、仁川停車場に至る邊一帶の地にして六千余坪を占め停車場より本町通に至る間最繁盛なり。他列國公共機關には各國領事館、各國警察署、烟草會社等あり。清國人居留者は人口約六百餘、其他英、米、獨、佛、伊、葡、希、和等の各國人は約一百人とす。

韓人街は各國居留地より京城に至る街道に沿ひ監理署、警務署、監獄等あり戸數約二千三百、人口一萬一千餘を有し市街は頗る繁盛なり。

通信機關及び交通機關

通信機關には日、韓、郵便、電信、電話の設あり。交通機關には陸上に京仁鐵道あ

清國居留地

開城

りて僅に一時間余にして京城に達すべく。海には我が郵船、商船、二大會社の汽船、仁川堀回漕店の汽船、其他本邦、韓國間及び韓國沿岸を航するの汽船にして本港に寄港せざるものなく、又帆船支那ジャンクの出入するもの非常に多し。明治三十五年中本港に出入したる船舶は汽船千六十二隻、五十七萬三千八百一噸、帆船九百九隻、三萬五千二百九十二噸、合計千九百七十一隻、六十萬九千九十三噸なり。

開城(松都、松京)

開城は城廓の周圍約一里にして戸數約一萬、其大半は南大門外に在り京城を距る北方十六里、長湍の西、四里とす。昔時高麗朝の首都たりしと韓國政府主要の財源たる人參の産地たるを以つて名あり。城内富豪多く商業の盛なること平壤と伯仲す。府民の大半は商估にして一般に商業的智識は頗る發達し居れり。

此地は輸出入貿易上仁川と密接の關係を有し仁川より外國品を輸入し又金、烟草、紙、大豆等の内國産を同地に輸出す。此地の市日は一六なれ共京城の如く

日常店舗を張り賣買盛なるが故に市日は唯露店の増加を見るに過ぎず。近時日本人の此地に居住する者漸く多し。

高浪浦

高浪浦は長湍郡に屬し同邑を去る東北四里開城を距る東方六里に在り。臨津江畔に於ける第一の集散地にして有名なる長湍大豆の最も多く産出するは此地なり。大豆は長湍郡下のみに止まらず坡州漣川積城及び麻田の諸郡に於ても亦産出し悉く此地に集り仁川に輸出せらる。

長湍(臨湍、夜牙)

長湍は京城を距る十二里、白鶴山麓にあり臨津江に臨む。居民農商相半し此附近一帯大豆の産地にして年々仁川を経て海外に輸出するもの莫大の額に上り長湍大豆と稱して其名著し。日清の役我軍の平壤を攻むるに當り此地は重要なる兵站地たりき。邑の北に華藏寺あり西域の僧指定なるもの錫を留めたる處にして貝葉經、栴檀香等を藏すといふ。此邊高麗時代以降公卿の塚墓多し。

驪州(永義、呂興)

驪州

京城を距る東南十九里に在り漢江に臨み舟運の便あり亦好箇の貨物集散地たり戸數約四百と稱し居民は多く舟楫によりて生活す。此地京城との交通水陸俱に至便なるが故に市街の體裁人民の生活京城に似たり。且つ閔族の郷里にして故閔后の故地なるを以て其在世中は大に修飾に意を用ひたり。其商業區域は東南忠州堤川地方より寧越橫城に及び西北は松坡、五江に達し舟楫の通する所大低商業上の關聯を有し前途有望の商業地たり。

水原(漢南、隨城)

水原は京畿道觀察使の駐在地にして京城を距る南方七里に在り戸數約三千と稱す。京釜鐵道停車場に近く忠清、全羅兩道より京城に入るの要路に當るを以つて人馬の往來頻繁なれ共京城を距る遠からざると仁川まで汽車の便あるに依り其割合に商業般盛ならず。

安城(白城)

京城を距る東南十七里に在り戸數約九百戸と稱す。邑内には市場なしと雖此邑に接して楊巨里と稱する戸數三百戸を有する地に市場あり。京畿道に於

安城

水原

江華島

ては松都に次げる大市場にして取引頗る盛なり。

江華島(江都、泌都)

仁川の西北方漢江の黄海に排出する處に横はれる一大島にして東北は江流之れを繞り西南は海に濱す。南北に延び長さ十余里東西に短く幅五里と稱す。島の北部に聳立するを磨尼山といひ山下に江華府あり石壁を以て圍繞し人家は多く瓦屋にして廓内に櫛比せり。又府内に離宮、兵營、武庫等あり生民漁農相半し商工之れに次ぎ航海を營む者亦多し。物産は石材、莞草等を主とす。

本島は對岸の通津邑と相待つて古來韓國險要の地點たり本島の南方仁川港の前面にある永宗島を第一門となし更に更に北進すれば頂山島ありて本島の草芝鎮と相對して第二門をなす。更に進むこと里許にして江曲り山轉する所之れを孫石頂といひ江上第一の要害の地形をなし兩岸暗礁多く潮汐激衝して危險言ふべからず。岸上砲臺あり則米國軍艦の砲撃に遭ひし處なり。更に溯りて兩岸人家の點在する處に至れば之れを甲申と稱し漢江第三門の要害たり。右岸は文珠山の控海門にして左岸は江華島の鎮海門なり。文珠山城は佛國陸戰

喬同島

隊の大敗したる處にして此峽を過ぐれば江流旋回し煙波萬頃恰も一大湖の如し之れ江流の二派に分れて西流する所なり。江岸悉く石壁にして船を泊するの地に乏しく真に天塹の地たり。仁川開港後嘗て此に水兵團を置き漢江口の防禦に備へしことあり。

江華島の西僅に一水を隔て、喬同島あり。長さ凡二里幅一里、全島人家一千戸、田畝能く開け游産を以つて名あり喬同郡治を置く。高麗の末倭寇屢々此島に依て貢船を掠奪し李朝に入りては貴人の配所に充てたることあり。

第五章 江原道

概説

江原道
概説

江原道は西北は平安道の陽德、黄海道の谷山、兎山等に隣り、西南は京畿道、忠清道と境し、南は慶尙道、北は咸鏡道に接し、東は日本海を隔て、遙に我が山陰、北陸地方と相對す。地形南北に長く東西に短く、南北の直徑約四十五里乃至七十里、東西二十里乃至三十里。本道の西方には金剛、雲岳、頭陀、太白等の諸名山屹立し

此等西部一帯の地は之を嶺西と稱し地瘠せ民情朴茂にして交通甚だ發達せず。此處は即ち古昔の貊國の故都にして又我が山雲族の殖民地たりしと傳へらる。嶺東の地は甚だ狹隘にして其最も廣しと稱せらるゝ江陵郡下の如きも尙數里に亘る平地を見るなく、地勢局促すと雖山海の眺臨絶佳にして又名湖奇巖多く景勝半島中第一と稱す。土地瘠確にして農産に豊かならずと雖鑛脈に富み人蔘の産地たり。海岸線は南北の延長九十里に亘り全岸殆んど一直線を以て劃せられ平砂相連りて港灣の屈曲、岬嶼の隆出少く碇泊地に乏し。

春川(牛首、安陽)

京城を距る東北二十一里に位し本道觀察府の所在地なり。北に清平山を負ひ南照陽江に沿ひ戸數は三百余に過ぎずと雖本邑の西南一里に船舶碇繫場を有し本道中屈指の貨物集散地なり。此地は貊國二千年の古都にして貊城あり又靺鞨塚あり附近には牛頭大村あり土人之れを牛首坪といひ傳へて素盞雄尊の占領地なりしといへり。

鐵原(鐵圓、東州)

鐵原は江原道中第一の米産地にして又全國中咸鏡道永興に次きて有名の紬産地たり其製紬高は一個年平均五千疋余なり。京城を距ること北東約十八里、戸數一千と算す。此地又鐵を産するを以て名あり先年本邦人大倉喜八郎韓人某と共同し採掘權を得たる山あれども未だ着手せられず。

三涉(陟州、眞珠)

一に陟州といふ京城より五十八里、會根山の南麓にある一都邑にして郡治の東約一里に小灣あり三涉浦と稱し嘗て水軍營を置きたり。古悉直國の地なり。三涉の西北、普賢山の東麓に位する一都邑を江陵といふ人家稠比し商業稍々盛なり。昔者穢の都せし處にして新羅時代には溟州と稱したり。

竹邊洞

一に竹濱とも書す蔚珍郡の海岸にあり。灣は南東に面して半月狀をなし西北風を避くるに適し灣内稍廣く百噸内外の小汽船を繋ぐに足る。本邦漁民の根據地にして春季潜水器船の幅棧するもの數十隻に及ぶ。西岸に竹濱洞あり人家四五十戸漁魚及び農を業とす。

鐵原

三涉

江陵

竹邊洞

長箭津

長箭津

地は通川郡に屬し本道沿岸唯一の良港灣にして本邦漁民之を軍艦港と稱す。灣口東に面し西に折れて灣入深く背面には金剛山屹立し其脈岐れて灣の南北西三面を圍繞するが故に三方の風を避くるに宜し。本港灣は本邦漁民の根據地たるのみならず各國捕鯨船の重要なる碇泊場にして殊に先年露國捕鯨會社の如きは公然沿岸の一部を租借し裁解地として使用したり。本邦潜水業者の納屋を構ふるもの亦多し。

蔚陵島

蔚陵島

本島は北緯百三十度四十五分乃至五十三分東經三十七度三十四分乃至三十分の間に位し平海郡越松浦の南四十余里の海中に在る孤島にして面積五百四方里許中央は高山屹立し高さ四千呎。沿岸港灣に乏しく船舶の碇繋頗る困難なり。全島平地稀なりと雖其地質は古來落葉枯草の堆積腐化したる黒土の一種より成り土地瘠腴にして肥料を施さざるも農耕を爲すを得大豆は本島の主産物にして年々の産額四五百石に及び本邦に輸出するもの多し。林産には

樺桐、松、白檀等あり。就中樺は徑六尺の巨材を産し桐は本邦にて松島桐と稱して珍とするものなり。往時は此種の樹木全島に繁生して殆んど無盡の觀ありしも近年本邦人の濫伐によりて漸く減少せり。其他山葡萄の産出あり又沿海に産出する石花菜は種類良好にして産額亦大なり。秋季山鶴の類非常に多く島民は之れを撲殺し肉は乾燥貯藏して年中の副食物とし脂肪は溶解して燈油に供す。本島天産物の饒多なるは韓國中多く其比類を見ず。

本島の住民は往時極めて稀少なりしも近年韓人及び本邦人の移住する者漸く多く韓人の戸數約四五百戸に及び本邦人亦一時三百以上に達したりしも先年本邦政府より退去の命ありたる爲め稍々減少したり。其本邦居留者は概ね鳥取縣人の直接渡航したるものにして木材大豆及び石花菜の輸出を營み或は雜貨日用品を販賣し純然たる日本村を形成せり。島中一泉の湧出するあり少しく酸味を帯び島民之れを藥白水と稱し疾病の際服用して藥餌に代ゆるに其効驗見るべきものあり。或は本邦の平野水、金山水等と同種なる炭酸水にはあらずやと云ふ。

本島は昔時新羅が我出雲地方と交通したる時隠岐島と共に寄港地たりし所にして中古倭寇の一時根據地となしたることあり。貝原益軒の如き本邦の屬地なりと斷じたる程なれ共明治十五六年の交本邦人の伐木に従事するものありしを韓廷の抗議により我邦之れを韓廷に譲り所屬初めて判明するに至れり。然れ共邦人の依然居住して伐木を營むもの多かりしが明治三十一年一時露人が本島の伐木植林の權利を得たることあり韓廷に照會して日本人の盜伐及び居住を禁ぜんことを迫り我公使は外部の照會を受け一時本邦人の立退を命ずることとなりしも其後急に同島を退去せしむるは事情の許さざるものあるを以つて其事由を韓廷に復讞したり。

本島より東南方約三十里我が隠岐島との殆んど中央に當り無人の一島あり。俗に之れをヤンコ島と稱す。長さ始んど十町余沿岸の屈曲極めて多く漁船を泊するに宜しと雖薪材及び飲料水を得るに困難にして地上を穿つも數尺の間容易に水を得ず此附近には海馬多く棲息し又海産に饒なりといふ。

咸鏡道
概説

第六章

咸鏡道 (南道)

概説

咸鏡道は韓國の東北端に位し東は日本海に臨み西は狼林山其他一帯の山脈に依りて平安道と劃し南は鐵嶺山脈を以て江原道に接し北は豆滿江及び鴨綠江に沿ふて清國吉林省と境を接し東北僅に鹿島を隔て、露領南烏蘇里州と對す。地勢南北に長く其直徑百五十里東西に狭くして廣さも四五十里狭きは八九里を出でず。其面積の廣大なることは八道中の第一に居り白頭山及び妙香山の脈々道内に彌漫し溪流其間を縱横して殆んど平野を見ず。土地礫确人烟稀薄にして産物に乏し。然れ共南道は北道に比すれば地勢稍々開濶にして耕地に富めり。

咸鏡道は古の沃沮の地にして漢に至て玄菟となり後挹婁、靺鞨南遷して之れに據り遂に高句麗の爲めに併せられし處にして人情は古來精悍なりと稱せらるれども現時は概ね靜穩なり。唯咸興附近の沿岸は稍々狡獪にして往々本邦

漁民と争鬭を惹起することあり。

本道北部の農民は春より秋にかけて温暖の期間毎年露傾に出稼するもの多きを以て此地方の住民は自然之れが感化を受け露韓折衷様の衣服を着るものあり。又露語に通ずる者多く本邦人に對して問を試むるに方り先づ露韓何れの語を解するやを以てするもの珍らしからず。又往々蠶村漁落の間に本邦五十音を解する者あり。此等は本邦より出稼せる潜水器船の漁夫より學び得たるものにして此地方一般に本邦語習得希望者多し。

元山

元山は德源府に屬し韓國三大港の一にして北韓三十九度十二分東經百二十七度三十分位す。浦鹽斯德へ約三百三十海里、釜山へ三百〇六海里ありて恰も釜山と浦鹽との中間に當り明治十三年の開港にして韓國北海岸に於ける唯一の要港なり。

東、葛馬半島の岬角と北、大江半島の岬角と相對して海水を包擁する處之れを永興灣といふ。會沙島、鹿島、薪島、茅島等の諸島灣口を掩ひ西南は長徳山其他の

韓人街

丘陵を繞らして之れを蔽障し灣内廣き所約六海里餘灣入亦畧之れに均しく水聲は以て船舶の出入に適し泥底にして投錨に佳なり。灣内の南奥一埠頭を見るもの則ち元山港にして港の極まる所は乃ち元山津とし韓人街、日本居留地及び各國居留地皆此處に在り一水を隔て、東北松田港と相對す。

此地の韓人街は由來北方の殷富と稱せられ昔時交濟倉及び元山倉を置き北方貢税の集積所として三大津の一に數へられし所。現時人家二千餘戸、人口一萬餘人、館房店舖海岸に連り土地頗る繁盛なり。

本邦居留地

本邦專管居留地は清國居留地、各國居留地と共に赤田川の小流を挟みて韓人街の北に在り東北は海に瀕し面積十余萬坪を有す。市街を一區通り二區通り三區通り四區通りに分ち領事館、守備隊、兵營、警察署、郵便局、居留民總代役場、商業會議所、水産組合支部、公會堂、小學校、病院、寺院、銀行支店、郵船會社支店、商船會社代理店、公園、劇場、料理店等諸般の設備整頓し本邦居留民は明治三十六年末調四百三十戸、一千八百四十六人あり其多くは長崎縣及び山口縣人なり。

清國居留地

清國專管居留地は日本居留地の北に隣し面積僅に三千坪に過ぎず。當初清

韓條約上租界の區域を確定することなく其豫定地として數萬坪の地區を有せしか爾後兩國關係の推移により歐米人の占領する所となり爲めに頗る狹隘のものとなれり。又歐米人は各所に散在するも別に一定の居留地を有せず。明治三十六年末の調査に據れば清國居留地戸數二十戸人口百六十人にして我が居留人口の十二分の一に過ぎず。然れ共其多くは北清地方の出稼民にして悉く商業を營み能く一致團結して更に相互不和競争を爲すことなく去る明治三十四年浦鹽港關稅引上後益々繁盛を致せり。歐米人の居住する者は十一戸三十六人とす。

海上の交通は日本郵船會社、大阪商船會社其他一二商店の汽船の寄港するありて少くとも毎週一回以上日本及び沿岸各港に交通の便あり。明治三十六年に於ける船舶の出入數は出港三百四十四隻、二十万一千三百三十四噸、入港六百八十七隻、四十万二千八百〇二噸なり。

松田灣

松田灣は永興灣内の北奥にありて元山津と相對せり。灣口は南に面し灣内

交通

松田灣

廣く水尋深く大艦巨舶を泊するに適し丘陵之れを繞りて風浪を避くるに宜しく東海岸有數の好投錨地なり。往年露國が此港に垂涎したりしも故なきにあらず。灣の北西奥に二水の海に注ぐものあり其流域沙金を産し産額少からず。灣内は牡蠣を饒産し本邦人の乾蠣製造に従事する者あり其製出高尠からず販路好望なり。

安邊(淺城、登州)

安邊は元山の南三里にあり北に鐵嶺の高峯を望み東南狼城江を帯び幅員東西五町、南北一町乃至四町、戸數四百余、生民商業を營む者多し。邑治は東北端に位し丘陵に據りて邑内を下瞰す。邑治の西北に釋王寺あり李太祖の建つる所なり。此地京元街道に沿ふを以つて旅客の往來絶えず。

安邊の西北元山を北に距る三里にあるを德源といふ。西に一峻嶺の時つあり満山皆松柳にして風光甚佳なり。人家は僅に二百余に過ぎずと雖地は元慶街道に當り人民は多く元山に往來して商業を營み稍富裕なり。

咸興(文眞國、咸州)

德源

安邊

成興

西浦

熱三里

元山の北方約二十五六里にあり咸鏡南道の主府にして民家連擔自ら一邑の勝を爲せり。南門上の樂民樓は韓人の誇稱する所にして平壤の練光亭と對比して壯麗なる建築物とせらる。邑の前面は原野曠渺として海に連り附近に太祖李成桂幼時の邸宅の存するものあり畫像を其中に安んじ官之れを守護し時々祭典を行ふ。南門に沿ふて一河の流るゝものあり之れを君子河となす。

本邑の東數里の海岸に西湖あり。内湖灣の北方に突出するモイシー岬角の西南面に位置し水深からされ其前に一小島を抱き北東の風を避け小汽船を泊するに足り咸興邑に於ける要港にして韓船の碇泊するもの多く時々汽船の便あり又本邦漁民の根據場たり。人家二百餘戸人情稍險惡なりといふ。

熱三里
海圖に之れを退潮浦とせり西湖の西七里にあり。灣口東北に向ひ灣内十餘町水深七八尋艦船の碇泊に適す。灣口に二小島あり風浪の隙避たり。邑は灣の西奥にあり人家三百餘戸過半は漁民にして洪源北青の沿海に明太魚を漁する者多し。

新浦

馬養島

遮湖

熱三里より北東八里陸臺岬と馬養島と相抱きて一港灣を造るもの之れを新浦となす。灣の北東には丘陵連り西北南風を避くるに善く人家は灣の北岸にありて約百七十餘戸此附近明太魚の産地にして季節には四方の漁船輻輳し産額頗る多し。本邦潜水器業重要な根據地たり。

馬養島
本島は洪源郡に屬し新浦の前面に横はり西南より東北に延び長さ約一里幅十町許戸數二百餘と稱す。島の北西面は屈曲多く數個の良港灣を爲せり北面深く灣入したる處に三個の港灣をなせるあり水底淺からず汽船を碇泊せしむべく其東端にあるもの最良にしてコルニロフ灣又は島地と稱す。露國捕鯨船裁解場あり又各國捕鯨船の根據地となす。

遮湖
地は利源郡に屬し新浦を距る北十一里三峰灣内にあり。灣口樹木の繁茂せる一小島を横へ灣入一里餘幅廣き所六七町水底五六尋小汽船を泊すべし。灣内の村落三個に分れ灣の正面にあるを上遮湖南にあるを下遮湖北にあるを島

項といふ人家合して五百餘戸過半漁民なり。此地は明太魚有數の産地にして汽船の寄港するあり本邦漁民亦納屋を構ふ者多し。

城津

城津は明治三十二年五月の開港にして咸鏡道の沿岸百二十里の殆んど中央に位し元山を距る七十五里に在り。港は臨溟灣の西奥一小半島の北方に位置す。地は城津郡に屬し北咸六鎮の咽喉に居り樞要の地たるも港灣淺くして西南風の外波浪を避くる能はず。此地往時水軍鎮を置き縣官を配置したる所にして其城跡今猶殘れり。日露の役露兵の襲來を避けて一時我が居留民を引揚げたることあり。

居留地

居留地は北岸の回所に在りて其區域は數十萬坪に亘る。各國居留制なれ共他外國人は米人宣教師一名のみにして全く本邦專管居留地たるの觀あり。居留民數は明治三十六年末に於て百六十八人を算せり。韓人街は西岸にありて人戸七十餘多く漁魚を業とし人情險惡なり。

海上交通は日本郵船大坂商船の汽船及び元山鏡城間往復の小蒸汽船天山浦

交通

沙間の不定期船等寄港す。陸上交通は元慶街道即ち天山露境慶興に達する道路に當る。又此地より北元慶街道の吉州より西に折れて南雪嶺の嶮阪を踰へ清境の東山鎮に達する道路あり。城津の西南に有名なる摩天嶺あり虎多きを以て著はる。

鏡城 (木郎古)

海岸を距る十餘町の西にあり北道觀察府の所在地にして邑内の人家一千三百餘戸北關第一の都會なり。先年我が東亞同文會にて鏡城學堂を此地に建設したれ共爾後閉鎖せり。本邑より露領に輸出する生牛は一個年一千餘頭に及び行商若くは勞働者の同地に出稼する者亦一千人に過ぐといふ。邑の附近に有煙炭礦あり嘗て露人の採掘したる者あれ共炭質不良の故を以つて中止したり。

鏡城の海岸に獨津あり。獨津は鏡城貨物出入港にして灣形東南に面し汽船の便あり船舶輻輳し本邦人の時々來往するもの多し。

羅津灣

獨津

鏡城

羅津灣

北緯四十二度四分、東經百三十度十一分に位し北關第一の良港灣なり港口は西南に面し前に馬島の浮ぶあり灣内廣く水深十二尋各國軍艦の寄港するもの尠からず明治三十二年八月英國東洋艦隊十餘艘之れに碇泊したることあり。本灣は露領ヤンチハの要塞を距ること僅に二十里に過ぎず。灣の東角西北面に羅津里あり人家三四十戸、夏季は多く露領に出稼す。

羅津里

雄基灣

雄基灣

豆滿江口の南、造山灣内更に西奥に灣入せる處にあり。瑪丁灣と相並び灣口東南に開き水深五尋乃至十二三尋、灣内廣く大艦を泊するに適す。此灣は露領ポシエトに接近し且つ艦隊の好碇泊場たるの故を以つて、羅津灣と共に極北の一良港として世人の注目する所にして先年露國は慶興と交替せんことを要求したることあり。浦沙斯德へ交通の便あり外船の來泊するもの多し。此港を通商港となさば慶興又は慶源を通じて琿春との貿易を開發すべく極めて有望なりといふ。灣の北岸に人家百四五十の一部落あり之れを雄基里とし慶興へは約七里餘にして達す。瑪丁は雄基灣と並びて瑪丁灣の北岸にあり。本邦漁

瑪丁

雄基里

四水羅

民の納屋を構ふる者あり。韓海の漁魚區域は是より東北約四里許なる鹿島を以つて限りとなし其以北は露領沿海に屬するを以つて本邦漁民の北方に來る者多く此地を以つて最終の根據地となす。

造山灣の左翼深く海中に突出したる韓國最東端の海角を西水羅となす。東北は豆滿江口を隔て、直に露領に接し西南馬島を望み其西面の造山灣に向ふ處を浦頂碇地となし深さ四尋乃至八尋韓船の露領に往復するもの多く此處に碇錨を繋ぐ。露韓の海岸線は此處に於て區劃せられ最も要衝の地點たり。然れ共海關の設なく海路貨物の出入は全く放任の姿なり。沿海昆布を産し其質北關第一位に居る。

茂山 (三山)

茂山は京城より百三十四里、豆滿江の上流に位する一鎮にして白頭山脈に接し森林鬱鬱として天に參り八道中の寶庫なり。今王建陽元年露人茂山森林の伐採權を獲得し盛に之れを伐採して豆滿江流を下し浦沙に輸送したり。茂山より江流に沿ふて下ること三十餘里にある會寧は加藤清正が二王子を擒にし

茂山

たる處なり。

慶源 (孔州)

慶源は京城より百九十五里、會寧より豆滿江流を下り鐘城穩城を過ぎ江の琿春河と合する處にあり。此地滿州琿春と相對し水利に富めり。先年露國人某露領ホスエト灣より百餘噸の汽船を以つて豆滿江を溯り十餘里の上流に達し得たりといへば若し輕吃水の小火船にても此地まで溯上せしむるを得ば貿易を促進すること疑ふべからず。慶源を下る十餘里に慶興あり。慶興は豆滿江を隔て、露領に隣り元山より陸路露領に通ずる最終地なり。千八百八十四年韓廷は露國と慶興陸路貿易條約を締結し爾來露韓人等の互市常に行はれ露國の貨幣自由に流通す。然れ共貿易意の如くならざるを以つて露國は雄基灣を以つて此に換へんことを要求したることあり。此邊の人民は浦沙地方に出稼若くは移住するもの多し。豆滿江流は此地まで百餘噸の汽船を溯航せしむ。

慶源

慶興

第七章 黃海道

概説

黃海道は其西半部は稍半島の形狀を成して海中に突出す。東南は京畿道に接し東は江原道に隣り北は平安道に連る。山脉全道に分布し各都邑の連絡を區分するを以つて交通便ならず、隨つて古來半島の中央にあると雖別乾坤を爲し、政治上の争地となり若くは都城を築きたることなく、歴史上の關係を有すること極めて薄し。

海州 (首陽、孤竹)

海州は京城を距る三十四里、黃海道觀察府の所在地にして北に首陽山を負ひ南は海州灣に面す。城廓周圍一萬四千尺餘、市街は城の内外に亘りて戸數約三千餘、街路縱横人家稠密にして商業殷盛なり。然れ共此地特殊の物産なく且つ附近の米穀は多く此地を經過せずして所在の浦口より輸出せらるゝを以て商業地として重要なる位地を占むる能はず。市街の背後に面前山あり山麓水匯

黃海道

概説

海州

延安

淳して一湖を爲し山影水態相映じて風光秀麗頗る臨眺に佳なり。海州の東十二里にして延安あり延安は禮成江の西寶蓋江の東にあり附近田園夙に開け米穀の産出多く且つ寶蓋江の水流は運漕に便にして人民多く舟楫の業に従ひ生計に裕なる者多し。

長淵 (長潭)

長淵は海州の西十五里南に大東河流あり戸數一千餘戸四周多く豊沃なる土田にして大豆の産地として名あり季節には海州より多數の商估來集して取引頗る盛なり。長淵の西長山岬より海水深く灣入して一大港灣を造り灣内幾多の浦口を有せり。南四里にして南昌浦あり東六里にして昔灘浦あり共に船舶の碇繋に適し貨物の出入頻繁なり。沿海海鼠を饒産し清國山東省の漁民年々渡來して密漁を爲すこと古より今に至り絶へずといふ。海中遙に三島の並列するあり北なるを白翎島といひ南にあるを大青島といひ大青島の東南にあるを小青島といひ之れを總稱してサーゼームスホール群島といふ。白翎島は古來兩班の重罪を犯したる者を流配する所なり。大青島は元の文帝順帝を流竄

長淵

載寧

せし所宮室階礎の遺址今猶遺存せり。

載寧 (息城、安陵)

載寧は人家約五百戸内外西は載寧江に枕み東南北は開淵たる平野に連る。此平野は所謂棘城の野にして載寧江を中心として北は黃州に延び東は鳳山に達し西は文化安岳信川地方に連り其領域甚だ曠遠にして直經十數里に亘る。而して載寧江は此大平野に普く灌溉の利を與へ米穀の産出頗る饒多なり。且つ此大平野に産する米は其粒頗長大にして品質の優良なる他地方の産に異るを以つて王家歴代内膳の供御に使用せらる。

載寧江は其水深甚だ深くして上流數里に四五百石の船舶を自由に通航せしむべく下流鐵島に至つて大同江に合し鐵島附近は水尋六十尺に及び數千噸の汽船を碇船せしむるを得るが故に載寧は載寧江及び大同江流域の各商業地に水運の利便を有せり。又陸運には海州地方より輸送し來たる貨物の仲繼場にして則ち水陸要衝の地點に居り商業頗る殷賑なり。殊に市日には各地商賈の來集するもの多く百貨輻輳群集雜鬧し賣買頗る盛なり。

附近に一大鐵山あり其鑛域數山に亘り數山皆一塊鐵にして所謂塊鐵と稱するものに屬し其産出の夥多なる他全國の産額に匹敵すべしといふ。又鉛鑛の産出あり。載寧より京城へは四十三里、黃州へ十里、安岳へ四里、信州へ三里とす。

白川

白川は京城より十八里餘、禮成江(一名金州江)の西岸に臨み江を隔て、京畿道の後西浦と相對す。米大豆の産地にして又此附近貨物の集散地たるが故に江岸船舶の碇繋するもの常に堪へず。文祿の役黒田長政寡兵を以つて明軍三萬を撃退せしは則ち此地なり。

金川 助邑浦

白川の東北禮成江を溯ること數里にして金川あり。京義鐵道停車場にして大豆の産地なり。更に溯ること一里許にして助邑浦あり。禮成江は此地に於て尙百五十石位の船舶を自由な上下し退潮を利用せば三四日にして能く仁川に達するを得るが故に此地以北の兎山、新溪、平山及び谷山、遂安等の遠方より米穀を仁川、京城に輸出するには此地に輸送するもの多く又魚鹽雜貨の必需品を輸入するにも多く此地を經過せざるなし。

黃州

黃州 (冬忽、齊安)

黃州は黃海西北部の首府にして嘗て兵馬節度使を置き全道の陸兵を統轄せしめたるの地、東に山を負ひ西は平野に連り南は鏡錦河に臨み載寧の曠野に接す。邑は東西約四町、南北七町、人家二千餘戸と稱す。街路參差として條序なく又凹凸甚しく平地少し。商業は甚だ盛にして平壤、開城等各地の商人の入込者非常に多し。此地の産物は棉花、大豆、生牛を重なるものとし棉花は多く咸鏡道地方に輸出し又京畿、忠清各地にも出し大豆は大同江沿岸及び仁川に輸出す。生牛は多く咸鏡地方に輸送し其取引盛大にして一市千頭内外の賣買あり。鏡錦河は此地の下流約一里迄海潮溯上し水深此邊に至りて漸く深く鐵島の上流三里許の處に於て大同江に合し冬季結氷期を除くの外舟楫を通ずるを得此地の商業に資するもの尠からず。又京義街道に沿ふを以つて古來人馬の往來常に絶えず加ふるに此地は京義鐵道中間の大停車場にして該鐵道は是れより分岐して最近の開港場たる兼仁浦に通じ直ちに船運に連絡するの便あり將來商業上軍事上重要なる都市たるに至らん。

第八章 平安道 (南道)

概説

平安道は韓國の西北端に在り東は咸鏡道に接し南は黃海道に連り西北は鴨綠江の水流に依りて清國の吉林奉天二省に界し西南は朝鮮海に面す。本道の中央を西南に流下して朝鮮海に注ぐ清川江以南を平安南道又は清南といひ以北を平安北道又は清北と稱す。

本道は山岳多く水田稀なるが故に米穀の産出多からずと雖豆黍の類は最も好く生育し其品質も良好なり。且つ各處礦物に富み砂金の産出は半島中本道を以て冠となし有名なる雲山及び般山の金坑は本道中に在り。又東北の山邑は良材の饒多を以つて知らる所謂鴨綠江上流の大森林地是れなり。

本道の東北部は位置避在し山岳多く交通不便なりと雖西南部は平野に富み且つ古來清國と交通の要路に當り官吏の往來貨物の出入一に此路に依りしを以つて半島中最も早く發達し歷史上著名の土地多し。而して都邑の般盛なる

平安道
概説

もの亦尠からざりしも甲午戰役以來陸上の貿易漸く振はず且つ日清及び日露兩度戰役の餘弊を受け其繁榮稍々舊時の如くならざるものあり。然れ共京義鐵道全通するに至らば更に繁盛の昔日に倍するものあらん。

鎮南浦

鎮南浦は明治三十年十月の開港に係り平壤を距ること三十七哩にあり。北緯三十八度、東經百二十五度四十分位し平安道の西南端、大同江の下流北岸に沿ひ江を隔て、南、黃海道と相對す。大同江上流に於ける唯一の港にして灣内廣く二千噸内外の巨船一時に四十隻を碇泊せしむるに足る。開港當時は實に寂寥たる一寒邑なりしが爾來市人來り船舶集り現時の盛況を見るに至れり。其位置たる平壤を東北に控へ北は義州に通じ西方は一面に黃海を扼し實に北韓西部の重鎮たり。

鎮南浦

各國居留地

各國居留地は丘陵の間に挟まり總面積は約九十五萬平方米突に亘る。各國租借の地積を擧ぐれば日本十五萬二千八百〇四平方米突、清國九萬百十三平方米突、露國三萬八千平方米突、米國二萬一千五百九十二平方米突、英國一萬六百五

十平方米突伊國八千九百五十平方米突とす。居留地内の道路溝渠堤防其他公共の工事は擧げて居留地會の經營に係り開港後年所を経る多からずと雖豫定道路は大半竣成し市街の整然たる他の開港場中稀に見る所なり。居留地内東南部に於て南北に通する一條の水路あり滿潮時五百石以下の船舶を自由に通航せしむべし。

日本人居留地

居留地の中央は東西に通じて殆んど日本人の所有する所となり其東北部は既に整然たる日本市街を成し市街の構造生活の状態宛然日本の市都たるの感あり。市内には日本領事館郵便局、日本人居留民役所、日本人商業會議所、鎮南浦輸出穀物商組合、尋常高等小學校、日本赤十字社、東本願寺、日蓮宗布教所病院、銀行、汽船會社代理店、鎮南浦婦人慈善會、同青年會、義勇消防團等の設あり。居留民の數は明治三十七年六月に於て既に日本人一千二百十七人を有せり。外國人の居住者は清國人三百二人、佛國人六人、米國人三人、獨國人一人とす。

韓人街

居留地の北方三和街道に沿ひ韓人街あり人口二千五百餘、居留地の繁榮に伴ひ漸々増加の傾向を有し監理署警務署此内に設けらる。又居留地を距る西八

交通

町に億兩機と稱する地あり韓人戸數百五十餘戸の一邑にして清國領事館及び韓國電報司、郵便司は此地にあり。

交通は海運には日本郵船會社、大阪商船會社、堀回漕店等の汽船定期に寄航するあり。而して大同江の流系は深く内地に入り平安、黃海兩道の大小都邑との交通を便するあり。船舶の出入實に頻繁にして明治三十六年中入港船舶總計一千九百三十四隻十一萬六千五百五噸なり。陸路には平壤及び安州に至る大路あり二路共に平坦にして其幅概ね四間、平安道の沿岸を除き水利の便なき地方に在つては米穀其他の貨物悉く此道路に由て運搬せらる。然れ共六七月の頃霖雨に際せば道路泥濘、車馬の通行頗る困難を極む。

兼二浦

兼二浦

兼二浦は本年始めて開港せられたる新開港場にして。大同江に沿ひ平壤と鎮南浦との中間に位し附近は最も農産物に富み港内は水深四千噸内外の船舶を自由に出入せしめ得。其開港極めて淺きを以つて商業上未だ何等の見るべきものなしと雖此地より江を渡りて黃海道の黃州に達すべき京義鐵道の

支線を敷設せらるゝの豫定なるを以つて鎮南浦の商業は追々此地に吸収せられ繁盛なる一通商港として將來重要な地歩を占むるに至るべきや疑ふべからず。

平壤 (箕城樂浪)

平壤は韓國の古都にして京城に亞げる大都會なり。京城義州間の畧中間に位し大同江の北岸に臨み後に大城山を負ひ東南は豐沃なる大野を控へ頗る要害の地なり。地勢首都たるに適せるを以て箕子の子孫衛滿此に都を奠め高句麗も亦數、此に都し高麗王朝の時には之れを西京となせり。又古より屢兵を被りたることあり文祿の役には小西行長此城に據りて李如松と戦ひ甲午日清戰役には我が軍包圍攻撃を以て清の守兵を撃退し其牡丹臺、乙密臺等は當時兩軍の血戰場たり。近く日露の役には七星門外に於て始めて我兵と露兵と兵火を交へしを以て知らる。而して其對岸船橋里は日清の役平壤包圍攻撃の正面軍たりし大島旅團の苦戰場なり。

平壤市の開放は群山、馬山、城津と時を同ふし即ち明治三十一年五月にあり。

平壤

外國人居留地

市街は内城、中城、外城、東北城の四區に分れ内城は周圍二里、外廓を繞らし大同、朱雀、靜海、七星の四門を設く。平壤には富豪多く居住し街衢は古都の舊觀を存して秩序整然たり。平安南道觀察府、平壤開市場監理署、郵便司、平壤郡衙、西京離宮、關西司令部等あり戸數七千戸人口三萬餘と稱す。住民の半は商を營み他は官吏及び勞働者とす。

平壤も亦京城の如く一定の外國人居留地と撰定されたる地區あることなく内外人雜居せり。米佛人等は多く外城に住し本邦人は大同門通り、朱雀門通り及び大同門外の江岸に居住せり。日本領事館分館、警察署、郵便局、居留民總代役場、商話會、皇太子殿下御慶事紀念慈善會、居留地小學校、平壤日語學校、平壤婦人會、平壤醫院、淨土宗教會所等皆此内に在り。居留民數は明治三十七年九月調査戸數百五十一戸、男三百二十人、女二百二十人あり大抵商業に従事す。支那人の在住者は大凡四五十年なれ共商業を營むものは僅々十人に滿たず他は勞働者なり。米國人は五十餘人在住し各布教及び教育に従事す。

交通は仁川、堀久、吉川、大阪商船等の小汽船の鎮南浦より大同江を溯航するも

交通

のあり。稍、大なる汽船は平壤より二里半の下流萬景岱以上に溯る能はざるを以て平壤萬景岱間は韓舩船によりて汽船に接續すと雖滿湖に乗するに非ざれば溯上し難く時に陸路を取るにあり。大同江に於ける舟楫の便は例年三月下旬より十二月中旬に至る九個月にして其他の三ヶ月は結氷の爲め舟楫通ぜざるを以て運輸は總て陸路に依る。

平壤は京城より義州を経て清國に到る樞要の街路に當り此道路は國中第一の大路と稱せらるるものにして其他各地に通ずる道路甚だ多し。今平壤各地間の距離を擧ぐれば左の如し。

平壤京城間	五十五里	平壤義州間	五十一里
同 開城間	二十九里	同 黃州間	十里
同 安州間	十七里	同 宣川間	三十五里
同 天山間	五十里	同 鎮南浦間	十五里
同 般山間	十五里	同 雲山間	三十二里

京義鐵道停車場敷地は外城箕子井田古跡の附近に選定せられ規模頗る宏大

なり。此鐵道にして竣功するの曉には平壤の面目を一新するものあらん。

安州

安州 (安陵、安北)

安州は平壤を距る西に十五里、京城へは六十四里とす。北は清川江に臨み南は丘陵を負ひ市街は土壁を繞らし周圍約一里半、壁内は二區に分劃せられ内城は西北にあり外城は東南にあり。外城の面積は略三分の二に居り内城は三分の一に居る。内外共に十三門を開き外城は東西八町南北四町、土地平坦に街路井整家屋は半ば瓦屋にして人家の多數は外城内にあり。内城は山麓に沿ひ街路高低凹凸多く人家亦多からず。此地素樓廟の美觀を極めたるものありしも甲午戰役の時多く兵燹に罹り舊觀を存するもの尠く人屋亦過半焼失し爾來一千戸を出でざるに至れり。清川江は幅員廣しと雖水淺く滿潮の時僅に小帆船を通ずるを得るのみ。

成川

成川 (沸流、松護)

成川は京城より六十三里、平壤の東十四里にあり。東には劔鶴山峙ち南は平野に連り西は沸流江に沿ひ周圍は山岳四周して自ら一小天地を造れり。戸數

五百餘戸とし人家は宏壯ならざれ共屋を葺くに青瓦を以てし街路整然戸々櫛比繁庶の一都會なり。平壤元山間の街道に當り附近各地の産物は一度此地に集り更に平壤に輸出せらる。此地の産物として煙草絹絲あり。住民は多く商業を營む。

寧邊 (密雲撫州)

寧邊は北道觀察府の所在地にして京城より六十八里安州へ西南四里あり。高麗の時既に邑を置きて延州と稱したるの地九龍江の清川江に合流する其中間に介在し邑城は周圍七萬三千餘尺の大廓にして外に世宗王の時北狄を防かんが爲めに築きたる藥山城あり。市街は高低多く路條非列せずと雖人家連檐戸數二千餘と稱し居民の大半は商業を營み遠く元山地方に出商する者あり。附近米穀の産出多く又地金砂金を産するを以て之れを平壤に輸出するもの年々莫大の額に上り人民概ね富裕なり。

江界 (石州清原)

江界は京城を距る一百三里にあり。此地素威鏡道内に屬せしが世宗王の時

義州

之れを平安道に編入せられたり。此邊一帶所謂鴨綠江上流の大深林地にして四邊皆山嶽峙ち樹木鬱生し大材巨幹悉く數百年のものたり。此地方一帶の地清太宗の發祥地に近きの故を以つて清廷に對する政畧上之れを廢郡となし人民の居住を禁じたりしが近時遼東地方の清人來て商を營み又材木の伐採に従ふ者多し。禿會江は溪谷の間を流れ江界の西に沿ふて下流鴨綠江に注ぎ此地附近まで舟筏を通ず。

義州 (龍灣咸新)

義州は京城より九十六里韓國々境に在り西北は鴨綠江に臨み江を隔て、對岸清國九連城と相對し東南は一帶の丘陵によりて圍繞せらる。城内東西約十町餘南北六町四周塼壁を環らし東西南北各面に一門を開き別に東面に一小門あり南門は層樓を爲し額して海東第一關と題す。門を入れば一條の大街直通するあり長さ四町許街路窮る處一開あり龍灣館と稱し客舍なり。此處より左折して二門を經過し更に北に轉進すれば丘陵の半腹に廳治あり結構壯麗を極む。廳の南方二町許にして一字の瓦甍人屋稠密の間に卓立するものあり之れ

を義順館といひ、素清國使節の旅館たりしものなり。其他各種の官房倉庫等市街の要區にありて、其建築概ね宏壯なり。城内は殊に人家周比し、大半は瓦屋にして戸數約二千余、頗る繁盛の狀あり。其街衢多く丘陵に沿ふを以て狭小にして傾斜し、南門通路を除くの外殆んど尋常の平地なし。外邑は内城の東面より南面を圍み、面積略全體の三分の二あり、其戸數は一千餘戸に過ぎず。街路は平坦地と傾斜地と相半し、家屋は多く茅屋にして瓦屋稀れに、市街の體裁は城内に劣れり。然れ共旅客車馬の往來頻繁なるを以て喧騒の狀、城内に勝り、商業亦城内より稍繁盛なるを見る。

此地古來柵門會市なるものあり。朝鮮政府例年使臣を北京廷に致し之れを冬至使といひ、冬十月に發し翌年二月に歸る。此使臣北京に往來の間、此地の柵門を開き、清韓兩國民に通商貿易を許す之れ、即ち柵門會市なり。開市の期は先づ二月廿日を以つて開き、五月三十日を以つて閉づ之れを冬使歸朝市といふ。次は九月十日に開き、十月三十日に閉づ之れを皇歷廢使市といふ。其次は十一月二十日に開き、十二月三十日に閉づ之れを冬至使入朝市といふ。此開市中兩

新義州

國の貨物出入し盛時には、其取引二三百萬圓に達したりしが、日清戰役後冬至使を廢したると共に、此會市も亦自然消滅に歸したり。

京義鐵道の終點地は義州の下一里許、新義州と稱する所にあり。鴨綠江は流勢頗る急激にして、且所々に淺洲を築くを以つて、吃水尠く馬力強き小汽船ならざれば航行し難く、義州及び下流の龍岩浦間の運輸は江流に依るよりも陸路九里内外に依るを却て便とし、又義州、安東縣間も江上僅に入漕を隔つるに過ぎざれ共、途中難所ありて汽船の通航には困難なりといふ。

龍巖浦

龍巖龍は鴨綠江口にありて、義州を下ること九里の下流、向岸の大東溝と烟波漂渺の間斜に相對し、港の中央に龍岩山あり、此丘岡によりて二劃分せられ、舊碇泊場、新碇泊場の區別あり、龍岩山に上りて一望すれば、平地の開濶たるを見る。韓人の部落は龍岩里と呼び、邦人の在住する者既に數百名に及び、支那人の在留者は二百餘人にして、別に一區劃を爲せり。

龍巖浦の水深は高潮十七尺、最高潮二十尺、干潮時は僅に五尺に過ぎず、干満の

龍巖浦

差殆んど十五尺に及ぶ。満潮時には優に一千噸以上の船舶を容るゝを得べく嘗て露國の運送船千五百噸のもの此津頭に碇泊したることあり。平安道一帯の沿岸二三の碇泊地を有すと雖悉く一二哩乃至三四哩に亘れる遠淺にして黄海平安二道の境界に流下する大同江口の鎮南浦を除く外他に本港の如き良港灣なく本港は平安道唯一の港灣と稱すべし。故に數年前露國は早く此港に着目し韓國經營の第一着手として本港の占領を企て之をニコラス浦と命名し此に兵營倉庫家屋等を建設したるもの今猶殘存せり。龍巖浦の下には耳湖浦梨花浦あり對岸には大東溝安東縣九連城栗飾園等の城市あり此等と相待つて本港は韓國北端の至要商業地たり。

韓國新地理 終

付與製並理地新國韓

明治三十八年九月六日印刷
 明治三十八年九月九日發行

定價四拾錢



著者 田淵友彦

東京市日本橋區本町三丁目八番地

發行者 大橋新太郎

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷者 飯田三千太郎

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀葉舎第一工場

發兌元

東京市日本橋區本町三丁目

博文館

文學士 久保天隨君著

朝鮮史

全一册

特製五十五錢
郵税四錢
並製四錢

元 發 館 文 博 町本京東

朝鮮の國東洋問題の中心たること古今同揆その歴史の研究は、刻下の急務なり。但、今日完
の史料はひとり其國のみならず、支那日本に存しその考證固より容易ならず。これ、今日完
全なる朝鮮史の未だ世に出でざる所以なり。天隨氏東洋の研究に従事すること日既、久し
く、さきに東洋通史を撰し、今又この著を公にせらる。本書記すところは、前後兩三朝高麗等半島
最古の民族を論じ、而して箕衛二氏漢族文化の影響を探究し、最後に今帝時代に至りて
に及び、日本との交渉の一分の一を就いては殊に詳密精確なる記述をなし、最後、朝鮮の世に出づる亦必ず
之を以て嚆矢となす。史學研鑽の念あるは固より論なく東洋問題に注意するもの亦必ず一
讀せざるべからず。

文學士 幸田成友君著 東洋歴史

- 總論 東洋と西洋—亞細亞洲の地理—川入—高低—水流等
- 第一期 上古より秦の一統まで
- 第二期 秦の一統より三國の分立まで
- 第三期 三國の分立より隋の一統まで
- 第四期 隋の一統より唐の滅亡まで
- 第五期 唐の滅亡より蒙古の勃興まで

- 第六期 蒙古の勃興より歐人の東略まで
- 第七期 歐人の東略より清の衰運まで
中央亞細亞及印度の形勢◎歐人の東略◎
明の末路等
- 第八期 清の衰運より日清戰爭まで
鴉片戰爭◎長髮賊の亂◎英佛の北清征伐
◎清露の交渉◎英露の交渉外三章

全一册洋裝大判
正價金四十八錢
郵税金五拾五錢
特製金拾五錢

文學士 久保天隨君著

東洋通史

全十二部

既刊 和裝綴

一册金拾錢 六册金貳拾七錢 全部金五圓 郵税一册金八錢

天隨先生、少年氣鋭、才力雄傑、研鑽すてに久しく、蘊蓄又頗る深く、
學は天人の才を貫き、識は古今の表に出で加ふるに雄文宏辭、一世
を籠蓋するの概あり先生曩に四書新釋、文章軌範精義の二書を出
され、今又此書を著はさる。上は漢族の移動、三代の興亡より。下は
日清の葛藤京城の攻圍に至り、黃禍の豫測を以て之を結ぶ。上下五
千年、縱横八十五萬方里、先づ上下兩卷を分ち、四大時期を劃し、章
を連ねる無慮數百。治亂興廢の跡、必ず原委を考へ、始終を綜べ、鉅
圍せざるなく、細、函せざるなく、坤輿の半面にその文化を被及し、
印度歐羅巴の人文と相並んで鼎足の勢を爲せる東亞ツラン人種の
起伏消長は、實に本書に於て之を審かにするを得べし、刻下の學界、
稀に見るところの一大撰述なり、且其文の如き瑰麗雄奇の趣を極
め光焰萬丈、善く人の眉目を爛す。かの『天爲めに粟を雨らし、鬼爲
に夜哭す』といふもの豈に獨り蒼頡の造字のみならんや、本書に於
て亦た然り。敢て學者文士及び經世家に一誦を勸む

發兌元 東京日本橋區本町 博文館

理學士 山崎直方君 佐藤傳藏君 共編

藤齋文學士・大日方理學士・大塚文學士・田山録彌君補輯

大日本地誌

全拾卷

既刊三卷

大日本地誌は全く在來の地誌と其目的方針を異にし、地文人文の關係を説くや、極めて詳密、極めて明晰なり、其體式は、一に歐洲最新式の地理書を參酌し、每編美麗なる精密地圖寫眞版等數多を挿入し、各地方に於ける山系、水系、湖澤、港灣等の形勢及氣象を詳述し、又各地の史蹟を地理的に描寫して、古今興亡の沿革を明にし、其他行政司法、軍事、教育、宗教、交通の狀勢を録する詳かに、産業部に於ては、農業、工業、商業、鑛業、林業、水産の六部に分類して、地方の特産を記述し、各地の名勝古蹟は素より、總て其材料の豊富なる調査の精確なる、卷冊の沿濶なる、製本の美麗なる、一として間然する所なく、全部拾卷總紙數約壹萬頁、而して編者山崎、佐藤の兩先生は斯學專攻の大家にして、尙助手として聘するに知名地理家數學士を以てす、眞に本邦空前の大地理書たり。

●第一卷 關東
相模、武藏、安房、上總、下總、常陸上野、下野、伊豆、七島及小笠原島
地圖十、寫眞二百餘、紙數九三〇

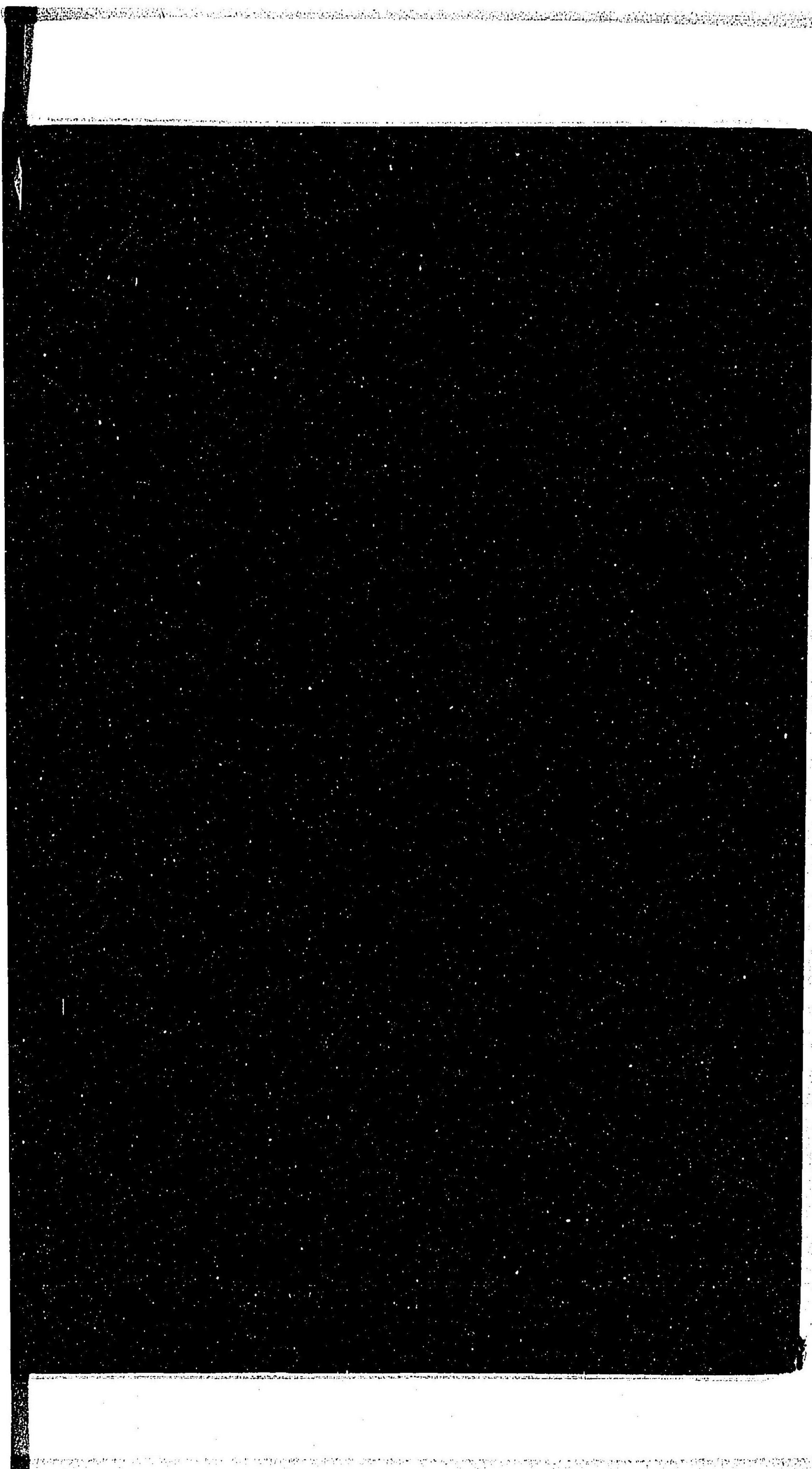
●第二卷 奥羽
磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、前羽後、後羽前、後羽後
地圖八、寫眞百七十餘、紙數九六〇

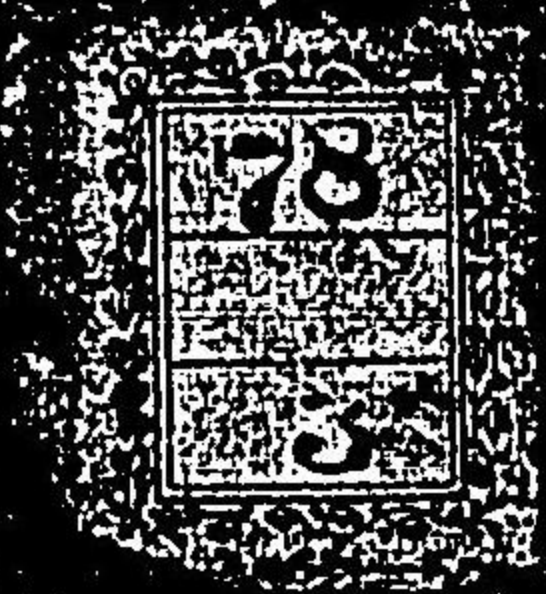
●第三卷 中部
尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、美濃、飛騨、信濃
地圖九、寫眞八十六、紙數九八〇

既刊	關東	奥	中	近	北	中	四	九	北海	琉球及臺灣
部	羽	東	畿	陸	國	國	州	道		

東京博文館

78
3





026382-000-3

78-3

韩国新地理

田淵 友彦/著

M38

ADD-0034



